

学科到達目標

一般科目(人文)では、

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
					1年				2年				3年				4年						5年			
					前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			1	2	3	4
一般	必修	国語A(MCA)	履修単位	2	2	2																	宮口典之			
一般	必修	国語A(ED)	履修単位	2	2	2																	堅田陽子			
一般	必修	国語B	履修単位	2	2	2																	中島泰貴			
一般	必修	歴史(MDC)	履修単位	2	2	2																	空健太			
一般	必修	歴史(EA)	履修単位	2	2	2																	中村史信			
一般	必修	地理	履修単位	2	2	2																	福井駿			
一般	必修	美術(前期)	履修単位	1	2																		山本卓見			
一般	必修	美術(後期)	履修単位	1		2																	山本卓見			
一般	必修	音楽(前期)	履修単位	1	2																		林寛子			
一般	必修	音楽(後期)	履修単位	1		2																	林寛子			
一般	必修	英語A(MED)	履修単位	2	2	2																	清水晃			
一般	必修	英語A(CA)	履修単位	2	2	2																	高橋泉野々村咲子			
一般	必修	英語B	履修単位	2	2	2																	佐竹直喜			
一般	必修	英語C	履修単位	2	2	2																	亀山太一			
一般	必修	総合国語(ME)	履修単位	2			2	2															中島泰貴			
一般	必修	総合国語(DCA)	履修単位	2			2	2															藤田祐史			
一般	必修	倫理(MD)	履修単位	2			2	2															中島泰貴			
一般	必修	倫理(ECA)	履修単位	2			2	2															中村史信			
一般	必修	歴史	履修単位	2			2	2															関口哲矢			
一般	必修	英語A(MCA)	履修単位	2			2	2															高橋泉野々村咲子			
一般	必修	英語A(ED)	履修単位	2			2	2															菅原崇			
一般	必修	英語B	履修単位	1				2															菅原崇			
一般	必修	英語C(MED)	履修単位	2			2	2															菅原崇			
一般	必修	英語C(CA)	履修単位	2			2	2															菅原崇			
一般	必修	総合国語(ED)	履修単位	2					2	2													宮口典之			
一般	必修	総合国語(MCA)	履修単位	2					2	2													堅田陽子			
一般	必修	政治・経済(MEDC)	履修単位	2						2	2												久保田圭司			
一般	必修	政治・経済(A)	履修単位	2							2	2											中村史信,空健太			
一般	必修	英語A	履修単位	2							2	2											菅原崇			
一般	必修	英語C	履修単位	1							2												キャンパトリック,清水晃			



岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国語 A (MCA)
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校国語総合 現代文編 (中渕正堯他・三省堂 2013年)				
担当教員	宮口 典之				
目的・到達目標					
中学校までの学習成果をふまえ、現代文の能力のさらなる育成を目的としている。					
①漢字や言葉の知識を身につける。 ②論理の展開を理解する。 ③要旨を把握する。 ④描かれている情景及び心理を理解する。 ⑤場面に応じた適確な表現をする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 漢字や言葉の知識は身についたか。	漢字や言葉の知識に関する問題を、ほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題を、ほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題を、正確に解くことができない。		
評価項目2 随想や評論的文章の論理の展開を理解し、要旨を把握できているか。	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題を解くことができない。		
評価項目3 韻文や物語内容を理解し、描かれている情景及び心理を理解できているか。	情景や心理の理解に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題を正確に解くことができない。		
評価項目4 場面に応じた適確な表現はできたか。	場面に応じた的確な表現がほぼ正確(8割以上)にできる。	場面に応じた表現がほぼ正確(6割以上)にできる。	場面に応じた的確な表現ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 参考となる資料は、授業時に適宜紹介するので、各自で参照すること。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	評論(1)、漢字の練習(1)		
		2週	評論(2)、漢字の練習(2)		
		3週	小説(1)、漢字の練習(3)		
		4週	小説(2)、漢字の練習(4)		
		5週	評論(3)、漢字の練習(5)		
		6週	評論(4)、漢字の練習(6)		
		7週	評論(5)、漢字の練習(7)		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	随想(1)、漢字の練習(8)		
		10週	随想(2)、漢字の練習(9)		
		11週	随想(3)、漢字の練習(10)		
		12週	詩歌(1)、漢字の練習(11)		
		13週	詩歌(2)、漢字の練習(12)		
		14週	小説(3)、漢字の練習(13)		
		15週	期末試験		
後期	3rdQ	1週	小説(5)、漢字の練習(15)		
		2週	評論(6)、漢字の練習(16)		
		3週	評論(7)、漢字の練習(17)		
		4週	評論(8)、漢字の練習(18)		
		5週	随想(4)、漢字の練習(19)		
		6週	随想(5)、漢字の練習(20)		
		7週	随想(6)、漢字の練習(21)		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	小説(6)、漢字の練習(22)		
		10週	小説(7)、漢字の練習(23)		
		11週	小説(8)、漢字の練習(24)		
		12週	評論(9)、漢字の練習(25)		

	13週	評論（10）、漢字の練習（26）	
	14週	評論（11）、漢字の練習（27）	
	15週	期末試験	
	16週	まとめ	

評価割合

	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	100	50	150
得点	100	50	150

岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国語 A ( E D )
科目基礎情報				
科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	高等学校国語総合現代文編 (三省堂 2013年) 辞書等			
担当教員	堅田 陽子			

### 目的・到達目標

中学校までの学習成果を踏まえ、現代文の能力のさらなる育成を目的としている。  
 ①漢字や言葉の知識を身につける。②論理の展開を理解する。③要旨を把握する。④描かれている情景及び心理を理解する。⑤場面に応じた的確な表現をする。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	漢字や言葉の知識に関する問題を、ほぼ正確 (8割以上) に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題を、ほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題を、正確に解くことができない。
評価項目2	論理や要旨の理解に関する問題を、ほぼ正確 (8割以上) に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題を、ほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題を、正確に解くことができない。
評価項目3	情景や心理の理解に関する問題を、ほぼ正確 (8割以上) に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題を、ほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題を正確に解くことができない。
評価項目4	場面に応じた的確な表現がほぼ正確 (8割以上) にできる。	場面に応じた表現がほぼ正確 (6割以上) にできる。	場面に応じた的確な表現ができない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。参考となる資料は、授業時に適宜紹介するので、各自で参照すること、
注意点	

#### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	評論(1)、漢字の学習(1)	
		2週	評論(2)、漢字の学習(2)	
		3週	小説(1)、漢字の学習(3)	
		4週	小説(2)、漢字の学習(4)	
		5週	評論(3)、漢字の学習(5)	
		6週	評論(4)、漢字の学習(6)	
		7週	評論(5)、漢字の学習(7)	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	随想(1)、漢字の学習(8)	
		10週	随想(2)、漢字の学習(9)	
		11週	随想(3)、漢字の学習(10)	
		12週	詩歌(1)、漢字の学習(11)	
		13週	詩歌(2)、漢字の学習(12)	
		14週	小説(3)、漢字の学習(13)	
		15週	小説(4)、漢字の学習(14)	
		16週		
後期	3rdQ	1週	小説(5)、漢字の学習(15)	
		2週	評論(6)、漢字の学習(16)	
		3週	評論(7)、漢字の学習(17)	
		4週	評論(8)、漢字の学習(18)	
		5週	随想(4)、漢字の学習(19)	
		6週	随想(5)、漢字の学習(20)	
		7週	随想(6)、漢字の学習(21)	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	小説(6)、漢字の学習(22)	
		10週	小説(7)、漢字の学習(23)	
		11週	小説(8)、漢字の学習(24)	
		12週	評論(9)、漢字の学習(25)	
		13週	評論(10)、漢字の学習(26)	
		14週	評論(11)、漢字の学習(27)	
		15週	まとめ	
		16週		

評価割合			
	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	200	100	300
得点	200	100	300
	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国語 B
科目基礎情報					
科目番号	0003	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	高等学校国語総合古典編 (三省堂 2013年) 辞書等				
担当教員	中島 泰貴				
目的・到達目標					
<p>多種多様な歴史観や文化観を理解し、また尊重していくために、その前提として自らが属している社会・文化に関する歴史的かつ基本的な知を、日本古典文学の学習を通じて獲得する。</p> <p>①歴史的仮名遣いを身につける。  ②古典文法の基本を身につける。  ③基本的な古典語彙を理解する。  ④古典文学の歴史的な背景を理解する。  ⑤伝統的文化への関心を深める。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古文をほぼ正確 (8割以上) に読むことができる。	古文をほぼ正確 (6割以上) に読むことができる。	古文を正確に読むことができない。		
評価項目2	各回の新出単語に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	各回の新出単語に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	各回の新出単語に関する問題を正確に解くことができない。		
評価項目3	各回の新出文法に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	各回の新出文法に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	各回の新出文法に関する問題を正確に解くことができない。		
評価項目4	各回に取り上げた作品の内容に関する問題をほぼ正確 (8割以上) に解くことができる。	各回に取り上げた作品の内容に関する問題をほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。	各回に取り上げた作品の内容に関する問題を正確に解くことができない。		
評価項目5	作品の成立背景や作品周辺の知に関する問題をほぼ正確 (8割以上) に解くことができる。	作品の成立背景や作品周辺の知に関する問題をほぼ正確 (6割以上) に解くことができる。	作品の成立背景や作品周辺の知に関する問題を正確に解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は教科書と板書を中心に行う。各自学習ノートを充実させ、授業の予習・復習を怠らないこと。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古文入門 1		
		2週	古文入門 2		
		3週	古文入門 3		
		4週	物語 1 竹取物語		
		5週	物語 2 竹取物語		
		6週	物語 3 竹取物語		
		7週	物語 4 竹取物語		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	物語 5 伊勢物語		
		10週	物語 6 伊勢物語		
		11週	物語 7 伊勢物語		
		12週	随筆 1 徒然草		
		13週	随筆 2 徒然草		
		14週	随筆 3 徒然草		
		15週	日記 1 土佐日記		
		16週			
後期	3rdQ	1週	日記 2 土佐日記		
		2週	日記 3 土佐日記		
		3週	日記 4 土佐日記		
		4週	軍記物語 1 平家物語		
		5週	軍記物語 2 平家物語		
		6週	軍記物語 3 平家物語		
		7週	軍記物語 4 平家物語		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	軍記物語 5 平家物語		
		10週	軍記物語 6 平家物語		
		11週	軍記物語 7 平家物語		

	12週	和歌と俳諧 1 奥の細道	
	13週	和歌と俳諧 2 奥の細道	
	14週	和歌と俳諧 3 奥の細道	
	15週	総まとめ (期末試験解答解説など)	
	16週		

評価割合			
	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	200	100	300
得点	200	100	300



岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	歴史 (MDC)
科目基礎情報				
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	『詳説世界史』 (山川出版社) / 『最新世界史図表タペストリー』 (帝国書院)			
担当教員	空 健太			

### 目的・到達目標

1年生の歴史は世界史を扱う。この授業では、世界史上の人物に焦点を当てる。授業の目標は、ある時代における世界史上の人物を評価する活動を通して、学生諸君が批判的に考える力を獲得することである。  
この授業では歴史について以下のようなスタンスをとる。歴史と過去は異なる。過去は「在ったこと」であり、歴史は「書かれたこと」あるいは「残されたこと」をもとにつくられるものである。現代から過去にアプローチをすることによって歴史が生まれる。ゆえに歴史とは有限のパースペクティブを持つ一定の視点からしか語りえないものである。  
学生諸君には歴史をそれしかないものと捉えることなく、別の歴史もありうるということという多様な見方や考え方を身に付けてほしい。その上で、批判的に考える力をつけることによって、さまざまな歴史をめぐる言説を自ら吟味し判断することができるようになることを目指す。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
世界史における人物とその時代を理解することができる。	世界史における人物とその時代に関する問題を正しく (8割以上) 答えることができる。	世界史における人物とその時代に関する問題におおむね正確に (6割以上) 答えることができる。	世界史における人物とその時代に関する問題にほとんど答えることができない
世界史における人物に関わる複雑な文書を読むことができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書 (史資料) を読解し、その内容を人物および当時の社会状況と関連付けることができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書 (史資料) を読み理解することができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書 (史資料) を読むことができない。
世界史の人物に関わる史資料から重要な事実を集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価するための重要な事実を複数集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価するための事実を集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価するための事実を集めることができない。
世界史上の人物について、論理的な評価を行うことができる。	世界史上の人物について、史資料から導いた複数の事実をもとにし、かつ当時の歴史的背景を踏まえた論理的で説得力のある評価を行うことができる。	世界史上の人物について、史資料から導いた事実をもとにした論理的な評価を行うことができる。	世界史上の人物について、具体的な事実にもとづかない感覚的な評価を行っている。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は講義も必要に応じて行うが、基本的に学生の活動を中心に進める。したがって、授業を受ける際には課された課題を各自で準備しておく必要がある。授業後は各自で授業内容を整理するとともに、次の課題を実施し理解を深めていくこと。
注意点	

#### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期授業イントロダクション	
		2週	権力による社会(1)ーローマ帝国の成立とオクタヴィアヌスー	
		3週	権力による社会(2)ー史料からオクタヴィアヌスについて考えるー	
		4週	権力による社会(3)ーオクタヴィアヌスを評価するー	
		5週	権力が分立する封建制社会(1)ーブランタジネット朝とアキテーヌのアリエノールー	
		6週	権力が分立する封建制社会(2)ー史料からアリエノールを考えるー	
		7週	権力が分立する封建制社会(3)ーアリエノールを評価するー	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	宗教とその改革(1)ーキリスト教とルターー	
		10週	宗教とその改革(2)ー史料からルターについて考えるー	
		11週	宗教とその改革(3)ールターを評価するー	
		12週	絶対王政から議会政治への変革(1)ークロムウェルとイギリス内戦ー	
		13週	絶対王政から議会政治への変革(2)ー史料からクロムウェルを考えるー	
		14週	絶対王政から議会政治への変革(3)ークロムウェルを評価するー	
		15週	4つのテーマに対する歴史解釈の考察	
		16週		
後期	3rdQ	1週	後期授業イントロダクション	
		2週	国家の近代化(1)ーピョートル大帝とロシアの西洋化ー	
		3週	国家の近代化(2)ー史料からピョートル大帝を考えるー	
		4週	国家の近代化(3)ーピョートル大帝を評価するー	

		5週	貿易活動の活発化と奴隷貿易(1)—ジョン・ニュートンと大西洋三角貿易—	
		6週	貿易活動の活発化と奴隷貿易(2)—史料からジョン・ニュートンを考える—	
		7週	貿易活動の活発化と奴隷貿易(3)—ジョン・ニュートンを評価する—	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	革命による国家の変容(1)—ロベスピエールとフランス革命—	
		10週	革命による国家の変容(2)—史料からロベスピエールを考える—	
		11週	革命による国家の変容(3)—ロベスピエールを評価する—	
		12週	植民地化と抵抗運動(1)—義和団事件と植民地化—	
		13週	植民地化と抵抗運動(2)—史料から義和団事件を考える—	
		14週	植民地化と抵抗運動(3)—義和団を評価する—	
		15週	歴史から考える現代世界	
		16週		

評価割合

	中間試験	期末試験	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	200	200	0	0	0	600
基礎的能力	200	200	200	0	0	0	600
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	歴史 (E A)
科目基礎情報				
科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	『詳説世界史』 (山川出版社) / 『最新世界史図表タペストリー』 (帝国書院)			
担当教員	中村 史信			

### 目的・到達目標

1年生の歴史は世界史を扱う。この授業では、世界史上の人物に焦点を当てる。授業の目標は、ある時代における世界史上の人物を評価する活動を通して、学生諸君が批判的に考える力を獲得することである。  
この授業では歴史について以下のようなスタンスをとる。歴史と過去は異なる。過去は「在ったこと」であり、歴史は「書かれたこと」あるいは「残されたこと」をもとにつくられるものである。現代から過去にアプローチをすることによって歴史が生まれる。ゆえに歴史とは有限のパースペクティブを持つ一定の視点からしか語りえないものである。  
学生諸君には歴史をそれしかないものと捉えることなく、別の歴史もありうるということという多様な見方や考え方を身に付けてほしい。その上で、批判的に考える力をつけることによって、さまざまな歴史をめぐる言説を自ら吟味し判断することができるようになることを目指す。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
世界史における人物とその時代を理解することができる。	世界史における人物とその時代に関する問題を正しく (8割以上) 答えることができる。	世界史における人物とその時代に関する問題におおむね正確に (6割以上) 答えることができる。	世界史における人物とその時代に関する問題にほとんど答えることができない
世界史における人物に関わる複雑な文書を読むことができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書 (史資料) を読解し、その内容を人物および当時の社会状況と関連付けることができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書 (史資料) を読み理解することができる。	世界史における人物に関わる複雑な文書 (史資料) を読むことができない。
世界史の人物に関わる史資料から重要な事実を集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価するための重要な事実を複数集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価するための事実を集めることができる。	世界史における人物に関わる史資料から、人物の評価するための事実を集めることができない。
世界史上の人物について、論理的な評価を行うことができる。	世界史上の人物について、史資料から導いた複数の事実をもとにし、かつ当時の歴史的背景を踏まえた論理的で説得力のある評価を行うことができる。	世界史上の人物について、史資料から導いた事実をもとにした論理的な評価を行うことができる。	世界史上の人物について、具体的な事実にもとづかない感覚的な評価を行っている。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は講義も必要に応じて行うが、基本的に学生の活動を中心に進める。したがって、授業を受ける際には課された課題を各自で準備しておくことが必要である。授業後は各自で授業内容を整理するとともに、次の課題を実施し理解を深めていくこと。
注意点	

#### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期授業イントロダクション	
		2週	権力による社会(1)ーローマ帝国の成立とオクタヴィアヌスー	
		3週	権力による社会(2)ー史料からオクタヴィアヌスについて考えるー	
		4週	権力による社会(3)ーオクタヴィアヌスを評価するー	
		5週	権力が分立する封建制社会(1)ーブランタジネット朝とアキテーヌのアリエノールー	
		6週	権力が分立する封建制社会(2)ー史料からアリエノールを考えるー	
		7週	権力が分立する封建制社会(3)ーアリエノールを評価するー	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	宗教とその改革(1)ーキリスト教とルターー	
		10週	宗教とその改革(2)ー史料からルターについて考えるー	
		11週	宗教とその改革(3)ールターを評価するー	
		12週	絶対王政から議会政治への変革(1)ークロムウェルとイギリス内戦ー	
		13週	絶対王政から議会政治への変革(2)ー史料からクロムウェルを考えるー	
		14週	絶対王政から議会政治への変革(3)ークロムウェルを評価するー	
		15週	4つのテーマに対する歴史解釈の考察	
		16週		
後期	3rdQ	1週	後期授業イントロダクション	
		2週	国家の近代化(1)ーピョートル大帝とロシアの西洋化ー	
		3週	国家の近代化(2)ー史料からピョートル大帝を考えるー	
		4週	国家の近代化(3)ーピョートル大帝を評価するー	

		5週	貿易活動の活発化と奴隷貿易(1)—ジョン・ニュートンと大西洋三角貿易—	
		6週	貿易活動の活発化と奴隷貿易(2)—史料からジョン・ニュートンを考える—	
		7週	貿易活動の活発化と奴隷貿易(3)—ジョン・ニュートンを評価する—	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	革命による国家の変容(1)—ロベスピエールとフランス革命—	
		10週	革命による国家の変容(2)—史料からロベスピエールを考える—	
		11週	革命による国家の変容(3)—ロベスピエールを評価する—	
		12週	植民地化と抵抗運動(1)—義和団事件と植民地化—	
		13週	植民地化と抵抗運動(2)—史料から義和団事件を考える—	
		14週	植民地化と抵抗運動(3)—義和団を評価する—	
		15週	歴史から考える現代世界	
		16週		

評価割合

	中間試験	期末試験	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	200	200	0	0	0	600
基礎的能力	200	200	200	0	0	0	600
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	地理
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書および参考書としては、『新詳地理B』（帝国書院）を指定する。その他、必要に応じて学習材(プリント等)を配布する。				
担当教員	福井 駿				
目的・到達目標					
<p>本授業では、地理的に思考する(Thinking Geographically)ことを目指す。地理的に思考するとは、空間という側面に着目することで、個々の出来事を、特定の規模(地域規模や世界規模)のシステムとして理解することである。それによって、これまで意味の無い出来事だと思われていたことについて意味を見つけ、それらの出来事の是非を吟味することを可能にし、社会の中で主体的に行為する能力を向上させることが期待される。本授業の具体的な目標は以下のようである。</p> <p>①世界を上手く説明できる知識を習得し、発展させること  ②探究に際して、多様な事象を関係付ける推論を実行すること  ③現代社会の問題を発見し、解決策を吟味すること</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	授業で扱った地名等の用語のほとんどについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った地名等の用語の重要なものについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った地名等の用語の重要なものについても、その意味を説明することができない。		
評価項目2	授業で扱った、資料読み取り等の地理的探究の手続きを正確に行なうことができる。	授業で扱った、資料読み取り等の地理的探究の手続きを行なうことができる。	授業で扱った、資料読み取り等の地理的探究の手続きを行なうことができない。		
評価項目3	授業で扱っていない地域について、何らかの一般的理論を用いてその特色を説明することができる。	授業で扱った地域について、一般的理論を用いてその特色を説明することができる。	授業で扱った地域について、一般的理論を用いてその特色を説明することができない。		
評価項目4	授業で扱っていない視点をを用いて、地域の違いを説明することができる。	授業で扱った視点をを用いて、地域の違いを説明することができる。	授業で扱った視点をを用いて、地域の違いを説明することができない。		
評価項目5	授業で扱っていないグローバルな問題について、それがなぜわれわれにとっても問題であるかを説明できる。	授業で扱ったグローバルな問題について、それがなぜわれわれにとっても問題であるかを説明できる。	授業で扱ったグローバルな問題について、それがなぜわれわれにとっても問題であるかを説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教員による講義やグループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションなど様々な形式で進めていくことになるので、授業が円滑に進められるように教員の指示には真摯に対応するように求める。また、それぞれが学習をふりかえるため、かつ教員がそれぞれの学習状況を把握するため、各自ノートを用意し学習の記録をとることを推奨する。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期イントロダクション		
		2週	アジアの地理的探究(1) (朝鮮半島, 中国, 東南アジア, 西アジア, 南アジアなどを事例に)		
		3週	アジアの地理的探究(2)		
		4週	アジアの地理的探究(3)		
		5週	アジアの地理的探究(4)		
		6週	アジアの地理的探究(5)		
		7週	地理的に考えると—「事例」とは		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	日本と世界の地理的探究(1) (自然環境, 産業構造, 生活文化などを視点に)		
		10週	日本と世界の地理的探究(2)		
		11週	日本と世界の地理的探究(3)		
		12週	日本と世界の地理的探究(4)		
		13週	日本と世界の地理的探究(5)		
		14週	日本と世界の地理的探究(6)		
		15週	期末試験		
		16週	地理的に考えると—「視点」とは		
後期	3rdQ	1週	後期イントロダクション		
		2週	グローバル問題の地理的探究(1) (飢餓, 環境汚染などを問題に)		
		3週	グローバル問題の地理的探究(2)		
		4週	グローバル問題の地理的探究(3)		
		5週	グローバル問題の地理的探究(4)		
		6週	グローバル問題の地理的探究(5)		
		7週	中間試験		

4thQ	8週	地理的に考えると「問題」とは	
	9週	グローバル問題への解決策提案(1)	
	10週	グローバル問題への解決策提案(2)	
	11週	グローバル問題への解決策提案(3)	
	12週	グローバル問題への解決策提案(4)	
	13週	グローバル問題への解決策提案(5)	
	14週	グローバル問題への解決策提案(6)	
	15週	期末試験	
	16週	地理的に考えると「まとめ	

評価割合

	前期中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	学習態度等	合計
総合評価割合	50	50	50	50	0	200
得点	50	50	50	50	-10~10	200

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	美術 (前期)
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜、教員が指示する。				
担当教員	山本 卓見				
目的・到達目標					
1 各自の自由なイメージによる作品を制作する。 2 柔軟な発想力、多様な表現力を養う。 3 日常における美意識を高め、豊かな感性を育てる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自由なイメージを、ほぼ正確 (8割以上) に具象化することができる。		自由なイメージを、ほぼ正確 (6割以上) に具象化することができる。		自由なイメージを、具象化することができない。
評価項目2	柔軟な発想力を、ほぼ十分 (8割以上) に身につけることができる。		柔軟な発想力を、ほぼ十分 (6割以上) に身につけることができる。		柔軟な発想力が身につけていない。
評価項目3	日常における美意識を、ほぼ十分に (8割以上) に高めることができる。		日常における美意識を、ほぼ十分に (6割以上) に高めることができる。		日常における美意識を高めることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	制作を中心に行うので、材料・道具・画材など、各自必要とするものをしっかり準備する。自分自身のイメージの表現に徹すること。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	制作課題の説明		
		2週	自画像 (自己の発見と表現) 鉛筆・絵の具・クレヨンなど、あらゆる画材・技法を用いて自己表現する。		
		3週	自画像		
		4週	作品発表会・講評・制作コンセプトのレポート提出。		
		5週	平面課題 (想像力と表現力の融合) 日本のイメージを、塗る・描く・貼るなどあらゆる技法・画材を用いて表現する。		
		6週	平面課題		
		7週	平面課題		
		8週	作品発表会・講評・制作コンセプトのレポート提出		
	2ndQ	9週	立体課題 (表現領域の拡大) 生活廃材を素材に、心の中の情景 (過去・現在・未来) を立体作品として表現する。		
		10週	立体課題		
		11週	立体課題		
		12週	立体課題		
		13週	立体課題		
		14週	立体課題		
		15週	作品発表会・講評・制作コンセプトのレポート提出		
		16週			
評価割合					
		課題作品	製作レポート	合計	
総合評価割合		300	150	450	
基礎的能力		200	100	300	
専門的能力		100	50	150	

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	美術 (後期)
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	適宜、教員が指示する。				
担当教員	山本 卓見				
目的・到達目標					
1 各自の自由なイメージによる作品を制作する。 2 柔軟な発想力、多様な表現力を養う。 3 日常における美意識を高め、豊かな感性を育てる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自由なイメージを、ほぼ正確 (8割以上) に具象化することができる。	自由なイメージを、ほぼ正確 (6割以上) に具象化することができる。	自由なイメージを、具象化することができない。		
評価項目2	柔軟な発想力を、ほぼ十分 (8割以上) に身につけることができる。	柔軟な発想力を、ほぼ十分 (6割以上) に身につけることができる。	柔軟な発想力が身につけていない。		
評価項目3	日常における美意識を、ほぼ十分に (8割以上) に高めることができる。	日常における美意識を、ほぼ十分に (6割以上) に高めることができる。	日常における美意識を高めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	制作を中心に行うので、材料・道具・画材など、各自必要とするものをしっかり準備する。自分自身のイメージの表現に徹すること。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業概要・制作課題の説明		
		2週	自画像 (自己の発見と表現) 鉛筆・絵の具・クレヨンなど、あらゆる画材・技法を用いて自己表現する。		
		3週	自画像		
		4週	作品発表会・講評・制作コンセプトのレポート提出。		
		5週	平面課題 (想像力と表現力の融合) 日本のイメージを、塗る・描く・貼るなどあらゆる技法・画材を用いて表現する。		
		6週	平面課題		
		7週	平面課題		
		8週	作品発表会・講評・制作コンセプトのレポート提出		
	4thQ	9週	立体課題 (表現領域の拡大) 生活廃材を素材に、心の中の情景 (過去・現在・未来) を立体作品として表現する。		
		10週	立体課題		
		11週	立体課題		
		12週	立体課題		
		13週	立体課題		
		14週	立体課題		
		15週	作品発表会・講評・制作コンセプトのレポート提出		
		16週			
評価割合					
	課題作品	製作レポート	合計		
総合評価割合	300	150	450		
基礎的能力	200	100	300		
専門的能力	100	50	150		



岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	音楽 (前期)
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	高校生の音楽 I (教育芸術社、2014)				
担当教員	林 寛子				
目的・到達目標					
1 校歌を歌唱し、本校の学生としての自覚を持つ。 2 仲間と合わせることの楽しさが分かり、互いに聴き合い、曲想やリズムを感じ取り、表現する能力を身につける。 3 総合芸術に興味・関心を持つ。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	正しい呼吸法と発声法が、ほぼ正確(8割以上)に身についた。		正しい呼吸法と発声法が、ほぼ正確(6割以上)に身についた。		正しい呼吸法と発声法が、身につかなかった。
評価項目2	強弱、速さなど音楽記号に気づき、工夫した表現が、ほぼ正確(8割以上)にできる。		強弱、速さなど音楽記号に気づき、工夫した表現が、ほぼ正確(6割以上)にできる。		強弱、速さなど音楽記号に気づき、工夫した表現ができない。
評価項目3	正確なリズムを、ほぼ正確(8割以上)に打つことができる。		正確なリズムを、ほぼ正確(6割以上)に打つことができる。		正確なリズムを打つことができない。
評価項目4	オペラを対象にした様々な問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。		オペラを対象にした様々な問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。		オペラを対象にした様々な問題を解くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	毎回、音楽を聴き感想を書きます。伊・仏・日本の唱歌を歌うため、読み方・歌詞の意味を学習します。正確なリズムが打てるよう個人指導を行います。グループ発表を行うため、練習を重ねるようアドバイスします。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		
		2週	校歌・中学校の合唱振り返り		
		3週	校歌・リズムの基礎		
		4週	校歌・クラッピング		
		5週	校歌・クラッピング		
		6週	クラッピング (グループ発表) ・オペラについて		
		7週	中間試験対策		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	DVD鑑賞 (オペラ)		
		10週	DVD鑑賞		
		11週	伊、仏、日本語の歌・作曲		
		12週	伊語の歌・日本の歌・作曲		
		13週	歌の個人指導		
		14週	歌の個人指導		
		15週	総復習 (期末試験の解答の解説など)		
		16週			
評価割合					
		歌唱・実技テスト		提出物	合計
総合評価割合		70		30	100
基礎的能力		70		30	100

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	音楽 (後期)
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	高校生の音楽 I (教育芸術社、2014)				
担当教員	林 寛子				
目的・到達目標					
1 校歌を歌唱し、本校の学生としての自覚を持つ。 2 仲間と合わせることの楽しさが分かり、互いに聴き合い、曲想やリズムを感じ取り、表現する能力を身につける。 3 総合芸術に興味・関心を持つ。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	正しい呼吸法と発声法が、ほぼ正確(8割以上)に身についた。	正しい呼吸法と発声法が、ほぼ正確(6割以上)に身についた。	正しい呼吸法と発声法が、身につかなかった。		
評価項目2	強弱、速さなど音楽記号に気づき、工夫した表現が、ほぼ正確(8割以上)にできる。	強弱、速さなど音楽記号に気づき、工夫した表現が、ほぼ正確(6割以上)にできる。	強弱、速さなど音楽記号に気づき、工夫した表現ができない。		
評価項目3	正確なリズムを、ほぼ正確(8割以上)に打つことができる。	正確なリズムを、ほぼ正確(6割以上)に打つことができる。	正確なリズムを打つことができない。		
評価項目4	オペラを対象にした様々な問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	オペラを対象にした様々な問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	オペラを対象にした様々な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	毎回、音楽を聴き感想を書きます。伊・仏・日本の唱歌を歌うため、読み方・歌詞の意味を学習します。正確なリズムが打てるよう個人指導を行います。グループ発表を行うため、練習を重ねるようアドバイスします。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		
		2週	校歌・中学校の合唱振り返り		
		3週	校歌・リズムの基礎		
		4週	校歌・クラッピング		
		5週	校歌・クラッピング		
		6週	クラッピング (グループ発表)・オペラについて		
		7週	中間試験対策		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	DVD鑑賞 (オペラ)		
		10週	DVD鑑賞		
		11週	伊・仏、日本語の歌・作曲		
		12週	伊語の歌・日本の歌・作曲		
		13週	歌の個人指導		
		14週	歌の個人指導		
		15週	総復習 (期末試験の解答の解説など)		
		16週			
評価割合					
		歌唱・実技テスト	提出物	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 A (M E D)
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『PROMINENCE Communication English I』、予習ノート、ワークブック (東京書籍)				
担当教員	清水 晃				
目的・到達目標					
<p>言語や文化に対する理解を深めるとともに、国際社会に生きる日本人として必要な実践的コミュニケーション能力の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>英文法および語彙の知識を深め、英語コミュニケーション能力を高める。</p> <p>①英文法の知識を深める  ②語彙を増やす  ③基礎的な英文を読解する  ④基礎的な英文を発音する  ⑤基礎的な英文を書く</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英文法に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	英文法に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	英文法に関する問題を解くことができない。		
評価項目2	語彙に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	語彙に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	語彙に関する問題を解くことができない。		
評価項目3	英文読解に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	英文読解に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	英文読解に関する問題を解くことができない。		
評価項目4	発音に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	発音に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	発音に関する問題を解くことができない。		
評価項目5	英作文に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	英作文に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	英作文に関する問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	予習・復習を大切にしてください。授業前に必ず教科書本文を読み、設問に答えておきましょう。毎回の授業に必ず辞書を持参すること。積極的に授業に参加してください。授業後は、習った表現をよく復習して使えるようにしましょう。わからないことは早めに教員に質問してください。進度は、学習者の理解度に応じて変動する場合があります。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、プリント教材		
		2週	Lesson 1 Rise and Shine!		
		3週	Lesson 1 Rise and Shine!		
		4週	Lesson 1 Rise and Shine!		
		5週	Lesson 2 Nothing but Love to You, Chirori		
		6週	Lesson 2 Nothing but Love to You, Chirori		
		7週	Lesson 2 Nothing but Love to You, Chirori		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	Lesson 3 You're Smarter than You Think		
		10週	Lesson 3 You're Smarter than You Think		
		11週	Lesson 3 You're Smarter than You Think		
		12週	Lesson 4 The Century of Water		
		13週	Lesson 4 The Century of Water		
		14週	Lesson 4 The Century of Water		
		15週	Lesson 5 Teammates		
		16週			
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 Teammates		
		2週	Lesson 5 Teammates		
		3週	Lesson 6 A Japanese Who Changed World Art		
		4週	Lesson 6 A Japanese Who Changed World Art		
		5週	Lesson 6 A Japanese Who Changed World Art		
		6週	Lesson 7 Making the Right Choices through Fair Trade		
		7週	Lesson 7 Making the Right Choices through Fair Trade		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	Lesson 7 Making the Right Choices through Fair Trade		
		10週	Lesson 8 The Sea Is Longing for the Forest		
		11週	Lesson 8 The Sea Is Longing for the Forest		

	12週	Lesson 8 The Sea Is Longing for the Forest	
	13週	Lesson 9 Origami: Taking Us to Outer Space	
	14週	Lesson 9 Origami: Taking Us to Outer Space	
	15週	Lesson 9 Origami: Taking Us to Outer Space	
	16週		

評価割合

	定期試験	平常試験・課題				その他	合計
総合評価割合	400	200	0	0	0	0	600
得点	400	200	0	0	0	0	600
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 B
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高校総合英語 Harvest [3rd Edition]、Harvest English Grammar Green Course in 25 Lessons、Harvest English Grammar Green Course Training Book (いずれも桐原書店)				
担当教員	佐竹 直喜				
目的・到達目標					
以下の項目に関する教科書レベルの試験・課題の総合点が60%以上に達すれば合格とする。					
①文法知識 ②語彙力 ③文法知識と語彙力を基にした読解力 ④文法知識と語彙力を基にした英語作文力 ⑤日常英会話レベルの基本的な内容のリスニング力					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	語彙力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	語彙力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	語彙力に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目2	文法知識に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法知識に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法知識に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目3	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目4	文法知識と語彙力を基にした読解力に関する問題を6割以上解くことができない	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題を6割以上解くことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語コミュニケーション活動、フォーカスオンフォーム活動(意味と形式を効果的に学習する)、ドリル問題を通して、英文法の学習を行う。高専生として、英語力をつけていくための基礎基本となるものであり、毎時間を大切に取り組んでほしい。教員は英語中心の指示で授業を進める。 ①コミュニケーション活動を通し、英文法を積極的に学び取り、理解を深める。 ②日常英会話レベルの基本的な内容は聞き取れる。 ③授業内外で英語を学習する習慣をつける。 ④文法・語彙の知識を増やす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の進め方とアドバイス: 授業では、教科書と参考書に沿って文法事項を学習する。授業には必ず英和辞書を持参すること。指示された予習は必ず行い、わからない単語は辞書で調べてから授業に臨むこと。各授業の復習を欠かさず行い理解できていない点は、後回しにせずその都度教員に質問するようにして、理解と定着に努めること。毎時間、「英語力がついた」と実感できるよう積極性を持って授業に参加してほしい。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、英語の語順(1)		
		2週	英語の語順(2)		
		3週	英語の語順(3)		
		4週	時制(1)		
		5週	時制(2)		
		6週	完了形(1)		
		7週	完了形(2)		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	助動詞(1)		
		10週	助動詞(2)		
		11週	助動詞(3)		
		12週	態(1)		
		13週	態(2)		
		14週	態 Plus		
		15週	期末試験		
		16週	不定詞(1)		
後期	3rdQ	1週	不定詞(2)		
		2週	不定詞(3)		
		3週	不定詞(4)		
		4週	不定詞 Plus		
		5週	動名詞		
		6週	動名詞 Plus		
		7週	動名詞と不定詞 Plus		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	分詞(1)		

	10週	分詞（2）	
	11週	分詞（3）	
	12週	分詞 Plus	
	13週	関係詞（1）	
	14週	関係詞（2）	
	15週	期末試験	
	16週	2年生へ向けて、振り返りとまとめ	

評価割合

	中間試験	期末試験	小テスト	テキスト提出 (授業参加)	長期休暇課題関 連	その他	合計
総合評価割合	200	200	60	40	80	60	640
前期	100	100	40	20	0	60	320
後期	100	100	20	20	80	0	320
	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 C
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「COCET2600」(成美堂)、English Firsthand Success (Marc Helgesen, Pearson Longman)				
担当教員	亀山 太一				
目的・到達目標					
<p>様々な課題を通して、英語 4 技能の基礎となる基本的な能力を養う。特に、英語らしい発音と語彙力を高めるため、Eラーニング教材等を利用したドリル演習を主として行う。これにより、以下のような技能を高める。</p> <p>①英語らしい発音で、単語や文が言える  ②自然な発音とスピードの英語を聞き取る  ③高専生に必要な基本的語彙力を身につける  ④高専生に必要な基本的文法知識を身につける  ⑤習った英語で簡単な会話ができる</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
英語らしい発音で、単語や文が言える	語彙力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	語彙力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	語彙力に関する問題を6割以上解くことができない		
自然な発音とスピードの英語を聞き取る	聴き取りに関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	聴き取りに関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	聴き取りに関する問題を6割以上解くことができない		
高専生に必要な基本的語彙力を身につける	文法に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法に関する問題を6割以上解くことができない		
高専生に必要な基本的文法知識を身につける	既習の英単語および英文の発音を正確に(6割以上)行なうことができる	既習の英単語および英文の発音をほぼ正確に(6割以上)行なうことができる	既習の英単語および英文の発音を6割以上行なうことができない		
習った英語で簡単な会話ができる	ネイティブスピーカーとの対話ができる	ネイティブスピーカーとの対話ができる	ネイティブスピーカーとの対話ができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	前期の授業では適宜 Eラーニングシステムを利用する。発音については、英語らしくできるよう繰り返し練習することが必要である。後期はネイティブスピーカーが担当となるので、授業中に与えられた課題を通して積極的にコミュニケーションをする態度を身につけて欲しい。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第 1 回: 授業ガイダンスと Eラーニングシステムの説明		
		2週	第 2 回: レベル診断テスト、Eラーニング (Section1)、英語発音練習 (その1)		
		3週	第 3 回: Eラーニング (Section2)、英語発音練習 (その2)		
		4週	第 4 回: Eラーニング (Section3)、英語発音練習 (その3)		
		5週	第 5 回: Eラーニング (Section4)、英語発音練習 (その4)		
		6週	第 6 回: Eラーニング (Section5)、英語発音練習 (その5)		
		7週	第 7 回: Eラーニング (Section6)、英語発音練習 (その6)		
		8週	第 8 回: 中間試験		
	2ndQ	9週	第 9 回: Eラーニング (Section7)、英語発音練習 (その7)		
		10週	第 10 回: Eラーニング (Section8)、英語発音練習 (その8)		
		11週	第 11 回: Eラーニング (Section9)、英語発音練習 (その9)		
		12週	第 12 回: Eラーニング (Section10)、英語発音練習 (その10)		
		13週	第 13 回: Eラーニング (Section11)、英語発音練習 (その11)		
		14週	第 14 回: Eラーニング (Section12)、英語発音練習 (その12)		
		15週	期末試験		
		16週	第 15 回: 期末試験解答解説および前期授業の総まとめ		
後期	3rdQ	1週	第 16 回: Greetings-Giving and getting personal information		
		2週	第 17 回: Dates and times-Schedules, Birthdays, etc.		

		3週	第18回： Asking Questions- information gathering		
		4週	第19回： Making Small Talk/ Chit Chat (ex. How was your day?)		
		5週	第20回： Prepositions (on, under, behind) & Giving Directions		
		6週	第21回： Adverbs of Frequency (ex. How often do you eat sushi?)		
		7週	第22回： Essay Question Review		
		8週	第23回： midterm exam		
	4thQ	9週	第24回： Agreeing and Disagreeing, Expressing Opinions (ex. I think natto tastes terrible!)		
		10週	第25回： Invitations		
		11週	第26回： Daily Schedules & Routines		
		12週	第27回： Occupations, Jobs		
		13週	第28回： Hobbies & Interests		
		14週	第29回： Weather and Seasons (ex. What do you like to do in the spring?)		
		15週	期末試験		
		16週	第30回： Semester Comprehensive Review		
	評価割合				
			試験	課題	合計
総合評価割合	100	100	200		
得点	100	100	200		



岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合国語 (ME)
科目基礎情報				
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	2	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	探求現代文B (桐原書店 2014年) パスワード級別漢字 (浜島書店編集部・浜島書店 2013年) 他に辞書等			
担当教員	中島 泰貴			

### 目的・到達目標

第1学年までの学習成果をふまえ、国語の能力のさらなる育成を目的としている。

- ① 漢字や語句の知識を増やす。
- ② 論理の展開を理解する。
- ③ 要旨を把握する。
- ④ 情景及び心理を理解する。
- ⑤ 場面に応じた適確な表現をする。
- ⑥ 背景となる文化についての関心を深める。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	漢字や言葉の知識に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題を正確に解くことができない。
評価項目2	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題を解くことができない。
評価項目3	情景や心理の理解に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題を正確に解くことができない。
評価項目4	場面に応じた的確な表現がほぼ正確(8割以上)にできる。	場面に応じた表現がほぼ正確(6割以上)にできる。	場面に応じた的確な表現ができない。
評価項目5	作品背景や文化の理解に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	作品背景や文化の理解に関する問題を正確(6割以上)に解くことができる。	作品背景や文化の理解に関する問題を正確に解くことができない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。参考となる資料は、授業時に適宜紹介するので、各自で参照すること。
注意点	

#### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	随想(1)、漢字の練習	
		2週	随想(2)、漢字の練習	
		3週	随想(3)、漢字の練習	
		4週	小説(1)、漢字の練習	
		5週	小説(2)、漢字の練習	
		6週	小説(3)、漢字の練習	
		7週	小説(4)、漢字の練習	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	評論(1)、漢字の練習	
		10週	評論(2)、漢字の練習	
		11週	評論(3)、漢字の練習	
		12週	小説(5)、漢字の練習	
		13週	小説(6)、漢字の練習	
		14週	小説(7)、漢字の練習	
		15週	中間試験	
		16週		
後期	3rdQ	1週	小説(8)、漢字の練習	
		2週	小説(9)、漢字の練習	
		3週	小説(10)、漢字の練習	
		4週	小説(11)、漢字の練習	
		5週	評論(4)、漢字の練習	
		6週	評論(5)、漢字の練習	
		7週	評論(6)、漢字の練習	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	小説(5)、漢字の練習	
		10週	小説(5)、漢字の練習	
		11週	小説(5)、漢字の練習	
		12週	小説(5)、漢字の練習	

	13週	小説（5）、漢字の練習	
	14週	小説（5）、漢字の練習	
	15週	総まとめ	
	16週		

評価割合

	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	200	100	300
得点	200	100	300

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合国語 (DCA)
科目基礎情報					
科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	探求現代文B (桐原書店 2014年) パスワード級別漢字 (浜島書店編集部・浜島書店 2013年) 他に辞書等				
担当教員	藤田 祐史				
目的・到達目標					
第1学年までの学習成果をふまえ、国語の能力のさらなる育成を目的としている。					
① 漢字や語句の知識を増やす。 ② 論理の展開を理解する。 ③ 要旨を把握する。 ④ 情景及び心理を理解する。 ⑤ 場面に応じた適確な表現をする。 ⑥ 背景となる文化についての関心を深める。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	漢字や言葉の知識に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	漢字や言葉の知識に関する問題を正確に解くことができない。		
評価項目2	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題を解くことができない。		
評価項目3	情景や心理の理解に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	情景や心理の理解に関する問題を正確に解くことができない。		
評価項目4	場面に応じた的確な表現がほぼ正確(8割以上)にできる。	場面に応じた表現がほぼ正確(6割以上)にできる。	場面に応じた的確な表現ができない。		
評価項目5	作品背景や文化の理解に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	作品背景や文化の理解に関する問題を正確(6割以上)に解くことができる。	作品背景や文化の理解に関する問題を正確に解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。参考となる資料は、授業時に適宜紹介するので、各自で参照すること。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	随想(1)、漢字の練習		
		2週	随想(2)、漢字の練習		
		3週	随想(3)、漢字の練習		
		4週	小説(1)、漢字の練習		
		5週	小説(2)、漢字の練習		
		6週	小説(3)、漢字の練習		
		7週	小説(4)、漢字の練習		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	評論(1)、漢字の練習		
		10週	評論(2)、漢字の練習		
		11週	評論(3)、漢字の練習		
		12週	小説(5)、漢字の練習		
		13週	小説(6)、漢字の練習		
		14週	小説(7)、漢字の練習		
		15週	中間試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	小説(8)、漢字の練習		
		2週	小説(9)、漢字の練習		
		3週	小説(10)、漢字の練習		
		4週	小説(11)、漢字の練習		
		5週	評論(4)、漢字の練習		
		6週	評論(5)、漢字の練習		
		7週	評論(6)、漢字の練習		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	小説(5)、漢字の練習		
		10週	小説(5)、漢字の練習		
		11週	小説(5)、漢字の練習		
		12週	小説(5)、漢字の練習		

	13週	小説（5）、漢字の練習	
	14週	小説（5）、漢字の練習	
	15週	総まとめ	
	16週		

評価割合

	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	200	100	300
得点	200	100	300

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	倫理 (MD)
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書および参考書としては、『倫理』(東京書籍), 『アプローチ倫理資料集』(とうほう)を指定する。その他、必要に応じて学習材(プリント等)を配布する。				
担当教員	中島 泰貴				
目的・到達目標					
<p>本授業では、哲学的に思考する(Thinking Philosophically)ことを目指す。哲学的に思考するとは、世界について信じていることを改めて吟味することである。それによって、自分が分かっていると思っていたことについて問いを立てて、それまでとは違う可能性を共に吟味しようと社会の中で他者と協力し合う能力を向上させることが期待される。具体的な目標は以下のようなものである。</p> <p>①過去の思想家を含む他者の思考を理解すること  ②探究に際して、信念を反省するような推論を実行すること  ③自ら問いを立てて、何が妥当で理にかなっているかを共に考えられるようにすること</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	授業で扱った人名等の用語のほとんどについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った人名等の用語の重要なものについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った人名等の用語の重要なものについても、その意味を説明することができない。		
評価項目2	授業で扱っていない、過去の思想家相互の関係を説明することができる。	授業で扱った、過去の思想家の考えを説明することができる。	授業で扱った、過去の思想家の考えを説明することができない。		
評価項目3	授業で扱った、概念定義をする等の哲学的探究の手続きを正確に行なうことができる。	授業で扱った、概念定義をする等の哲学的探究の手続きを行なうことができる。	授業で扱った、概念定義をする等の哲学的探究の手続きを行なうことができない。		
評価項目4	自己と他者に共通する問いを立てることができる。	自分なりの問いを立てることができる。	問いを立てることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教員による講義やグループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションなど様々な形式で進めていくことになるので、授業が円滑に進められるように教員の指示には真摯に対応するように求める。また、それぞれが学習を後にふりかえるため、かつ教員がそれぞれの学習の状況を知るため、各自ノートを用意し学習の記録をとることを推奨する。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第 1 回: 前期イントロダクション		
		2週	第 2 回: 自我についての問い(1)		
		3週	第 3 回: 自我についての問い(2)		
		4週	第 4 回: 自我についての問い(3)		
		5週	第 5 回: 自我についての問い(4)		
		6週	第 6 回: 自我についての問い(5)		
		7週	第 7 回: 自我についての問い(6)		
		8週	第 8 回: 中間試験		
	2ndQ	9週	第 9 回: 正義についての問い(1)		
		10週	第 1 0 回: 正義についての問い(2)		
		11週	第 1 1 回: 正義についての問い(3)		
		12週	第 1 2 回: 正義についての問い(4)		
		13週	第 1 3 回: 正義についての問い(5)		
		14週	第 1 4 回: 正義についての問い(6)		
		15週	期末試験		
		16週	第 1 5 回: 哲学的に考えると一倫理的問いの特質		
後期	3rdQ	1週	第 1 6 回: 後期イントロダクション		
		2週	第 1 7 回: 真理についての問い(1)		
		3週	第 1 8 回: 真理についての問い(2)		
		4週	第 1 9 回: 真理についての問い(3)		
		5週	第 2 0 回: 真理についての問い(4)		
		6週	第 2 1 回: 真理についての問い(5)		
		7週	第 2 2 回: 真理についての問い(6)		
		8週	第 2 3 回: 中間試験		
	4thQ	9週	第 2 4 回: 思考についての問い(1)		
		10週	第 2 5 回: 思考についての問い(2)		
		11週	第 2 6 回: 思考についての問い(3)		
		12週	第 2 7 回: 思考についての問い(4)		
		13週	第 2 8 回: 思考についての問い(5)		

	14週	第29回：思考についての問い(6)	
	15週	期末試験	
	16週	第30回：哲学的に考えるとは一まとめ	

評価割合

	前期中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	学習態度等	合計
総合評価割合	50	50	50	50	0	200
得点	50	50	50	50	-10~10	200

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	倫理 (E C A)
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『倫理』 (東京書籍)				
担当教員	中村 史信				
目的・到達目標					
『思想家の「答え」だけでなく、「動機」と「問い」も重視する』 『「日本人」とはどのように出来てきたか』 人間は危機に直面したときまず既得の知識・手法で対処するが、通用しなくなったときそれに代わる何かを編み出す必要に迫られる。そこに新しい思想が生まれる。そうやって先人が築き、積み重ねた財産を受け取るのが倫理という科目である。 よって、この授業の目標を以下に定める。 1. 世界の主な思想・宗教について正しい知識を習得する。 2. 日本の主な思想・宗教について正しい知識を習得する。 3. 現実の諸問題について倫理的判断力を養い、自己の意見を確立する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
世界の主な思想・宗教について正しい知識を習得したか	世界の主な思想・宗教に関する問題を正確に答えられる (8割程度)	世界の主な思想・宗教に関する問題をおおよそ正確に答えられる (6割程度)	世界の主な思想・宗教に関する問題を正確に答えられない		
日本の主な思想・宗教について正しい知識を習得したか。	日本の主な思想・宗教に関する問題を正確に答えられる (8割程度)	日本の主な思想・宗教に関する問題をおおよそ正確に答えられる (6割程度)	日本の主な思想・宗教に関する問題を正確に答えられない		
現実の諸問題について倫理的判断を下し、それを論理的に述べる力が身についたか。	倫理的判断力を養い、自己の見解を論理的に述べる事が出来る	倫理的判断力を養い、自己の見解を論理的に述べる事がやや出来る	倫理的判断力を養い、自己の見解を論理的に述べる事がほとんど出来ない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	原則として、教科書・プリント等を用いた講義形式で行なう。ただし一部の回ではディベートを行う。 具体的なアドバイスは次の通り。 (1) 受講者の疑問に即して授業を進める (だからどんどん発言しよう) (2) 日々のニュースをチェックして社会問題に関心をもち、講義に登場する思想との関連性を考えてみよう (3) 授業中に紹介する参考図書にもできるだけ触れてほしい				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	なぜ倫理を学ぶか (1) 青年期と死		
		2週	なぜ倫理を学ぶか (2) 哲学の水面下		
		3週	なぜ倫理を学ぶか (3) 技術と社会		
		4週	古代ギリシア思想 (1)		
		5週	古代ギリシア思想 (2)		
		6週	キリスト教 (1) ユダヤ教とイエス		
		7週	キリスト教 (2) 成立		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	キリスト教 (3) 中世の神学思想		
		10週	イスラーム教 (1) 成立		
		11週	イスラーム教 (2) イスラーム世界の拡大		
		12週	仏教 (1) インド思想		
		13週	仏教 (2) ブッダの思想		
		14週	仏教 (3) 仏教の発展		
		15週	中国思想 (1) 儒家思想		
		16週			
後期	3rdQ	1週	中国思想 (2) 老荘思想		
		2週	日本人の精神風土 (1) 記紀神話		
		3週	日本人の精神風土 (2) 倫理観・宗教観		
		4週	日本の近世思想 (1) 儒学		
		5週	日本の近世思想 (2) 国学		
		6週	近代化と民衆思想 (1) 通俗道徳		
		7週	近代化と民衆思想 (2) 幕末の新興宗教		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	ディベート準備		
		10週	ディベート (1)		
		11週	ディベート (2)		
		12週	日本の近代思想 (1) 啓蒙思想・自由民権・国家主義		
		13週	日本の近代思想 (2) 近代的自我の確立		

	14週	日本の近代思想（3）戦後思想・現代思想	
	15週	知識人とは何か	
	16週		

評価割合

	中間試験	期末試験	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	200	200	0	0	0	600
基礎的能力	200	200	200	0	0	0	600
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0



岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	歴史
科目基礎情報					
科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『詳説日本史』 (山川出版社) / 『最新日本史図表』 (第一学習社)				
担当教員	関口 哲矢				
目的・到達目標					
<p>日本の近代史・現代史 (近現代史) を中心に学習する。 過去の出来事から何かを学び取る行為は、特別なことではない。皆さんも、これまでの経験を反省し、現在や将来に生かそうとすることは多いと思う。授業では、皆さんの経験よりもはるかに長い近現代という時間のなかで起こった政治を中心とする出来事の意味を考察することによって、今後の日本のあり方を主体的に考える力を養ってもらいたいと考えている。</p> <p>〔身につけたい力〕</p> <p>①近現代史のなかの主要な出来事や人物が理解できる。 ②歴史的な出来事を文章と図の両面からとらえることができる。 ③歴史的な出来事が起こった原因と、結果の関係を考えることができる。 ④複数の歴史的な出来事を相互に関連づけて考えられる。 ⑤過去の出来事から学んだことを、現代の問題として考えられる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
近現代史のなかの主要な出来事や人物が理解できたか。	近現代史のなかの主要な出来事や人物が深く理解できる。	近現代史のなかの主要な出来事や人物が理解できる。	近現代史のなかの主要な出来事や人物が理解できない。		
歴史的な出来事を文章と図の両面からとらえることができたか。	歴史的な出来事を文章と図の両面からとらえ正確に説明することができる。	歴史的な出来事を文章と図の両面からとらえることができる。	歴史的な出来事を文章と図の両面からとらえることができない。		
歴史的な出来事が起こった原因と、結果の関係を考えることができたか。	歴史的な出来事が起こった原因と結果の関係を考え、その意味を考察することができる。	歴史的な出来事が起こった原因と、結果の関係を考えることができる。	歴史的な出来事が起こった原因と、結果の関係を考えることができない。		
複数の歴史的な出来事を相互に関連づけて考えられたか。	複数の歴史的な出来事を相互に関連づけて、新たな価値を創造することができる。	複数の歴史的な出来事を相互に関連づけて考えられる。	複数の歴史的な出来事を相互に関連づけて考えられない。		
過去の出来事から学んだことを、現代の問題として考えられたか。	過去の出来事から学んだことを、現代の問題として具体的な事例を用いて考えられる。	過去の出来事から学んだことを、現代の問題として考えられる。	過去の出来事から学んだことを、現代の問題として考えられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は主に教科書・図表を使用した講義と意見交換によって進める。必要に応じてプリントを配布し授業内で作業をしたり自らの考えを求めたりする。ノートの取り方を工夫したり、疑問をもって自ら考えたりするなどの主体的な態度で臨んでほしい。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション (授業概要と歴史を学ぶ意味)		
		2週	世界のなかの日本 (19世紀の世界と日本)		
		3週	世界のなかの日本 (開国、幕末の動乱)		
		4週	日本の近代化 (明治維新)		
		5週	日本の近代化 (明治新政府による諸改革)		
		6週	日本の近代化 (近代国家の整備)		
		7週	日本の近代化 (自由民権運動、東アジアの情勢と日本)		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	アジアへの進出 (日清戦争、台湾征服戦争)		
		10週	アジアへの進出 (日英同盟、日露戦争)		
		11週	アジアへの進出 (韓国併合)		
		12週	アジアへの進出 (産業の発達と日本社会)		
		13週	アジアへの進出 (第一次世界大戦)		
		14週	アジアへの進出 (大戦後の国際秩序、大正デモクラシー)		
		15週	アジアへの進出 (世界恐慌、軍縮の破綻)		
		16週			
後期	3rdQ	1週	昭和の戦争 (満州事変)		
		2週	昭和の戦争 (5.15事件と2.26事件)		
		3週	昭和の戦争 (日中全面戦争)		
		4週	昭和の戦争 (第二次世界大戦)		
		5週	昭和の戦争 (アジア・太平洋戦争)		
		6週	昭和の戦争 (植民地政策)		
		7週	昭和の戦争 (戦争のもとでの国民生活)		
		8週	昭和の戦争 (日本の敗戦)		

4thQ	9週	中間試験	
	10週	世界のなかの日本（戦後の処理）	
	11週	世界のなかの日本（冷戦と講和、「逆コース」）	
	12週	世界のなかの日本（日米安全保障条約、高度成長）	
	13週	世界のなかの日本（冷戦の終結）	
	14週	現代社会の問題（国内問題）	
	15週	現代社会の問題（国際問題）	
	16週		

評価割合

	中間試験	期末試験	平常点	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	200	100	0	0	0	500
基礎的能力	200	200	100	0	0	0	500
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 B
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「COCET2600」 (成美堂)				
担当教員	菅原 崇				
目的・到達目標					
<p>様々な課題を通して、英語 4 技能の基礎となる基本的な能力を養う。特に、英語らしい発音と語彙力を高めるため、Eラーニング教材等を利用したドリル演習を主として行う。これにより、以下のような技能を高める。</p> <p>①英語らしい発音で、単語や文が言える  ②自然な発音とスピードの英語を聞き取る  ③高専生に必要な基本的語彙力を身につける  ④高専生に必要な基本的文法知識を身につける  ⑤習った英語で簡単な会話ができる</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1①語彙力に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる	語彙力に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	語彙力に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	語彙力に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目2②聞き取りに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる	聞き取りに関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	聞き取りに関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	聞き取りに関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目3③文法に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる	文法に関する問題を正確に(8割以上)解くことができる	文法に関する問題をほぼ正確に(6割以上)解くことができる	文法に関する問題を6割以上解くことができない		
④既習の英単語および英文の発音をほぼ正確(6割以上)に行なうことができる	既習の英単語および英文の発音を正確に(8割以上)行なうことができる	既習の英単語および英文の発音をほぼ正確に(6割以上)行なうことができる	既習の英単語および英文の発音を6割以上行なうことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業では適宜Eラーニングシステム(担当教員作成のもの)を利用する。発音については、英語らしくできるよう繰り返し練習することが必要である。				
注意点					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	第 1 回: 授業ガイダンスとEラーニングシステムの説明		
		2週	第 2 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section1)		
		3週	第 3 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section2)		
		4週	第 4 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section3)		
		5週	第 5 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section4)		
		6週	第 6 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section5)		
		7週	第 7 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section6)		
	8週	第 8 回: 中間試験			
	4thQ	9週	第 9 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section7)		
		10週	第 1 0 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section8)		
		11週	第 1 1 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section9)		
		12週	第 1 2 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section10)		
		13週	第 1 3 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section11)		
		14週	第 1 4 回: 語彙および英文法のためのEラーニング (Section12)		
		15週	期末試験		
16週		第 1 5 回: 期末試験解答解説および授業の総まとめ			
評価割合					
	試験	課題	合計		
総合評価割合	100	100	200		
得点	100	100	200		

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 C (MED)
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	総合英語エイブル、able English Grammar 27 Lessons、able English Grammar 27 Lessons Workbook、Wonderland 3 New Edition				
担当教員	菅原 崇				
<b>目的・到達目標</b>					
英語コミュニケーション能力の基礎となる英文法の定着を目指すと同時に、語彙を増やし、読解力、英作文の能力を養成する。					
①英文法の知識を深める ②語彙を増やす ③リーディング能力を高める ④ライティング能力を高める					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英文法に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	英文法に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	英文法に関する問題を解くことができない。		
評価項目2	語彙に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	語彙に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	語彙に関する問題を解くことができない。		
評価項目3	リーディングに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	リーディングに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	リーディングに関する問題を解くことができない。		
評価項目4	ライティングに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	ライティングに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	ライティングに関する問題を解くことができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	予習がなされているという前提で授業を進める。教科書の演習問題は解いた上で授業に臨むこと。前期はable English Grammar 27 Lessonsを、後期はWonderlandを使用する。				
注意点					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、課題試験、プリント教材		
		2週	Lesson 23 関係詞①		
		3週	Lesson 24 関係詞②		
		4週	Lesson 25 関係詞③		
		5週	Further Study 関係詞		
		6週	Lesson 26 仮定法①		
		7週	Lesson 27 仮定法②		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	Optional Lesson 1 疑問詞と疑問文、否定、Optional Lesson 2 名詞と冠詞		
		10週	Optional Lesson 3 代名詞		
		11週	Optional Lesson 4 形容詞、Optional Lesson 5 副詞		
		12週	Optional Lesson 6 前置詞、Optional Lesson 7 接続詞		
		13週	Optional Lesson 8 語法		
		14週	Optional Lesson 9 強調・倒置・挿入・同格・省略		
		15週	Optional Lesson 10 名詞構文・無生物主語構文		
		16週			
後期	3rdQ	1週	UNIT 1		
		2週	UNIT 2		
		3週	UNIT 3		
		4週	UNIT 4		
		5週	UNIT 5		
		6週	UNIT 6		
		7週	UNIT 7		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	UNIT 8		
		10週	UNIT 9		
		11週	UNIT 10		
		12週	UNIT 11		
		13週	UNIT 12		
		14週	UNIT 13		

		15週	UNIT 14	
		16週		

評価割合

	定期試験	平常試験・課題				その他	合計
総合評価割合	400	200	0	0	0	0	600
得点	400	200	0	0	0	0	600
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 C (C A)
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	able総合英語、able English Grammar 27 Lessons、able English Grammar 27 Lessons workbook (第一学習社)、英語の構文80 UPGRADED 総合問題演習 (美誠社)				
担当教員	菅原 崇				
目的・到達目標					
以下の項目に関する教科書レベルの試験・課題の総合点が60%以上に達すれば合格とする。					
①文法知識 ②語彙力 ③文法知識と語彙力を基にした読解力 ④文法知識と語彙力を基にした英語作文力 ⑤英語構文の知識					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	語彙力に関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	語彙力に関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	語彙力に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目2	文法知識に関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	文法知識に関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	文法知識に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目3	英語構文に関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	英語構文に関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	英語構文に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目4	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	文法知識と語彙力を基にした英語作文力に関する問題を6割以上解くことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>1 1年生英語Bに引き続いて、英語コミュニケーション活動、フォーカスオンフォーム活動(意味と形式を効果的に学習する)、ドリル問題を通して、英文法の学習を行う。高専生として、英語力をつけていくための基礎基本となるものであり、毎時間を大切に取り組んでほしい。教員は英語中心の指示で授業を進める。</p> <p>2 英語構文を学習する。英語構文はエッセイライティングやTOEIC試験に欠かせないものであり、高専生としての英語力を飛躍させるためには重要なものになる。</p> <p>3 エッセイライティングの基礎を学ぶ。高専生が身につける力として、一定の長さの英語の文章を書き、自分の研究内容を伝えられる力がある。その第一歩として必要な要素を学ぶ。</p> <p>①コミュニケーション活動を通し、英文法を積極的に学び取り、理解を深める。</p> <p>②授業内外で英語を学習する習慣をつける。</p> <p>③英語構文を使えるようにする。</p> <p>④エッセイライティングの基礎が分かる。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	授業では、教科書と参考書に沿って文法事項を学習する。授業には必ず英和辞書を持参すること。指示された予習は必ず行い、わからない単語は辞書で調べてから授業に臨むこと。各授業の復習を欠かさず行い理解できていない点は、後回しにせずその都度教員に質問するようにして、理解と定着に努めること。毎時間、「英語力がついた」と実感できるような積極性を持って授業に参加してほしい。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	課題テスト、復習(比較)		
		2週	関係詞①		
		3週	関係詞②		
		4週	関係詞③		
		5週	Further Study 関係詞		
		6週	仮定法①		
		7週	仮定法②		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	Optional Lesson 1 疑問詞と疑問文、否定		
		10週	Optional Lesson 2 名詞と冠詞		
		11週	Optional Lesson 3 代名詞		
		12週	Optional Lesson 4 形容詞		
		13週	Optional Lesson 5 副詞		
		14週	Optional Lesson 6 前置詞		
		15週	期末試験		
		16週	Optional Lesson 7 接続詞		
後期	3rdQ	1週	課題テスト、Optional Lesson 8 話法		
		2週	Optional Lesson 9 強調・倒置・挿入・同格・省略		
		3週	Optional Lesson 10 名詞構文・無生物主語構文		
		4週	英語構文、英作文活動①		
		5週	英語構文、英作文活動②		
		6週	英語構文、英作文活動③		
		7週	英語構文、英作文活動④		

4thQ	8週	中間試験	
	9週	英語構文、エッセイライティングの基礎①	
	10週	英語構文、エッセイライティングの基礎②	
	11週	英語構文、エッセイライティングの基礎③	
	12週	英語構文、エッセイライティングの基礎④	
	13週	英語構文、エッセイライティングの基礎⑤	
	14週	英語構文、エッセイライティング発表	
	15週	期末試験	
	16週	言葉の習得について改めて考える、3年生へ向けて	

評価割合

	中間試験	期末試験	小テスト	テキスト提出 (授業参加)	長期休暇課題関 連	その他	合計
総合評価割合	200	200	40	40	80	0	560
前期	100	100	20	20	40	0	280
後期	100	100	20	20	40	0	280
	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合国語 (E D)
科目基礎情報				
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	高等学校標準現代文B (東郷克美他・第一学習社 2014年)			
担当教員	宮口 典之			

### 目的・到達目標

第2学年までの学習成果をふまえ、さらに国語の学習を発展させる。具体的には、以下の能力の育成を目標とする。

- ① 漢字や語句の知識を増やす。
- ② 文脈の中から語句の意味を読解する。
- ③ 論理の展開を理解する。
- ④ 要旨を正確に把握し、文章を要約する。
- ⑤ 文章の背景となる社会や文化について関心を深める。
- ⑥ 適切な日本語で自分自身の考えを表現する。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 漢字や語句の知識が身についたか。	漢字・語句に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	漢字・語句に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	漢字・語句に関する問題を解くことができない。
評価項目2 論理の展開を理解し、文章の内容を要約できたか。	論理展開の理解・要約に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	論理展開の理解・要約に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	論理展開の理解・要約に関する問題を解くことができない。
評価項目3 日本の社会や文化についての関心は深まったか。	日本の社会や文化に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	日本の社会や文化に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	日本の社会や文化に関する問題を解くことができない。
評価項目4 適切な日本語で表現をすることができたか。	適切な日本語による表現をほぼ正確(8割以上)に行なうことができる。	適切な日本語による表現をほぼ正確(6割以上)に行なうことができる。	適切な日本語による表現をほぼ正確に行なうことができない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 授業中に出される課題には真剣に取り組むこと。 参考となる資料については、授業中に適宜紹介するので、各自で参照すること。
注意点	

#### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	随想 (1)	
		2週	随想 (2)	
		3週	随想 (3)	
		4週	小説 (1)	
		5週	小説 (2)	
		6週	小説 (3)	
		7週	評論 (1)	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	評論 (2)	
		10週	評論 (3)	
		11週	詩 (1)	
		12週	詩 (2)	
		13週	: 詩 (3)	
		14週	評論 (4)	
		15週	期末試験	
		16週	評論 (5)	
後期	3rdQ	1週	評論 (6)	
		2週	小説 (4)	
		3週	小説 (5)	
		4週	小説 (6)	
		5週	短歌・俳句 (1)	
		6週	短歌・俳句 (2)	
		7週	短歌・俳句 (3)	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	評論 (7)	
		10週	評論 (8)	
		11週	評論 (9)	
		12週	小説 (7)	



	13週	小説（8）	
	14週	小説（9）	
	15週	期末試験	
	16週	まとめ	

評価割合

	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	100	50	150
得点	100	50	150

岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合国語 (MCA)
科目基礎情報				
科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	高等学校標準現代文B (東郷克美他・第一学習社 2014年)			
担当教員	堅田 陽子			

### 目的・到達目標

第2学年までの学習成果をふまえ、さらに国語の学習を発展させる。具体的には、以下の能力の育成を目標とする。

- ① 漢字や語句の知識を増やす。
- ② 文脈の中から語句の意味を読解する。
- ③ 論理の展開を理解する。
- ④ 要旨を正確に把握し、文章を要約する。
- ⑤ 文章の背景となる社会や文化について関心を深める。
- ⑥ 適切な日本語で自分自身の考えを表現する。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 漢字や語句の知識が身についたか。	漢字・語句に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	漢字・語句に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	漢字・語句に関する問題を解くことができない。
評価項目2 論理の展開を理解し、文章の内容を要約できたか。	論理展開の理解・要約に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	論理展開の理解・要約に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	論理展開の理解・要約に関する問題を解くことができない。
評価項目3 日本の社会や文化についての関心は深まったか。	日本の社会や文化に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	日本の社会や文化に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	日本の社会や文化に関する問題を解くことができない。
評価項目4 適切な日本語で表現をすることができたか。	適切な日本語による表現をほぼ正確(8割以上)に行なうことができる。	適切な日本語による表現をほぼ正確(6割以上)に行なうことができる。	適切な日本語による表現をほぼ正確に行なうことができない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 授業中に出される課題には真剣に取り組むこと。 参考となる資料については、授業中に適宜紹介するので、各自で参照すること。
注意点	

#### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	随想 (1)	
		2週	随想 (2)	
		3週	随想 (3)	
		4週	小説 (1)	
		5週	小説 (2)	
		6週	小説 (3)	
		7週	評論 (1)	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	評論 (2)	
		10週	評論 (3)	
		11週	詩 (1)	
		12週	詩 (2)	
		13週	: 詩 (3)	
		14週	評論 (4)	
		15週	期末試験	
		16週	評論 (5)	
後期	3rdQ	1週	評論 (6)	
		2週	小説 (4)	
		3週	小説 (5)	
		4週	小説 (6)	
		5週	短歌・俳句 (1)	
		6週	短歌・俳句 (2)	
		7週	短歌・俳句 (3)	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	評論 (7)	
		10週	評論 (8)	
		11週	評論 (9)	
		12週	小説 (7)	

	13週	小説（8）	
	14週	小説（9）	
	15週	期末試験	
	16週	まとめ	

評価割合

	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	100	50	150
得点	100	50	150
	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	政治・経済 (MEDC)
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	資料『政経2016』(東京学習出版社)を使用するほか、適宜プリントを配布する。				
担当教員	久保田 圭司				
目的・到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	資本主義経済の基本的な歴史に関する問題を正確(90%以上)に解くことができる。		資本主義経済の基本的な歴史に関する問題をほぼ正確(60%以上)に解くことができる。		資本主義経済の基本的な歴史に関する問題を解くことができない(正解率60%未満)。
評価項目2	現代資本主義における経済現象に関する問題を正確(90%以上)に解くことができる。		現代資本主義における経済現象に関する問題をほぼ正確(60%以上)に解くことができる。		現代資本主義における経済現象に関する問題を解くことができない(正解率60%未満)。
評価項目3	20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題を正確(90%以上)に解くことができる。		20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題をほぼ正確(60%以上)に解くことができる。		20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題を解くことができない(正解率60%未満)。
評価項目4	所得税など代表的な直接税を正確(90%以上)に算定できる。		所得税など代表的な直接税をほぼ正確(60%以上)に算定できる。		所得税など代表的な直接税を算定できない(正解率60%未満)。
評価項目5	販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを正確(90%以上)に算定できる。		販売信用や消費者金融の基本的返済パターンをほぼ正確(60%以上)に算定できる。		販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを算定できない(正解率60%未満)。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は板書による説明を中心に進める分野と、計算機を使い計算演習を行う分野に分かれる。テキストは必要に応じて参照するが、テキストに沿って授業を進めるわけではないので注意が必要である。計算課題は予習を前提に授業中に達成することを基本とし、論述課題は年2回期限を設ける形式で課す。いずれも提出は任意である。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	年間ガイダンス、通貨概論		
		2週	販売信用のシミュレーション1 (分割払い)		
		3週	販売信用のシミュレーション2 (リボルビング払い1)		
		4週	販売信用のシミュレーション3 (リボルビング払い2)		
		5週	消費者金融のシミュレーション1		
		6週	消費者金融のシミュレーション2		
		7週	販売信用と消費者金融の復習		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	資本主義の歴史1 (商業資本主義)		
		10週	資本主義の歴史2 (産業資本主義1)		
		11週	資本主義の歴史3 (産業資本主義2)		
		12週	資本主義の歴史4 (ポスト産業資本主義1)		
		13週	資本主義の歴史5 (ポスト産業資本主義2)		
		14週	資本主義の歴史6 (ポスト産業資本主義3)		
		15週	期末試験解答解説など		
		16週			
後期	3rdQ	1週	租税概論		
		2週	所得税のシミュレーション1 (基本パターン)		
		3週	所得税のシミュレーション2 (家族がいるケースなど応用パターン)		
		4週	住民税のシミュレーション1 (基本パターン)		
		5週	住民税のシミュレーション2 (家族がいるケースなど応用パターン)		
		6週	贈与税のシミュレーション		
		7週	租税の復習		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	公債1		
		10週	景気循環1		
		11週	景気循環2		
		12週	物価変動		
		13週	基本的な金融政策		
		14週	国際通貨制度		
		15週	期末試験解答解説など		

		16週			
評価割合					
	定期試験	計算課題	論述課題	学習態度	合計
総合評価割合	400	100	100	60	660
前期得点	200	50	50	30	330
後期得点	200	50	50	30	330

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	政治・経済 (A)
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『最新政治・経済資料集』(第一学習社)				
担当教員	中村 史信,空 健太				
目的・到達目標					
この授業では日本と世界の政治・経済をめぐる諸問題について総合的に学習する。 具体的な目標は以下の通り。 1. 政治・経済の基礎知識を広げる。 2. 社会問題を論理的に考察し、説明する力を養う。 3. 現代の時事問題や国際情勢への理解・関心を深める。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
政治・経済についての正しい知識を習得したか。	政治経済の知識に関する問題を正確に答えられる(8割程度)	政治経済の知識に関する問題をおおよそ正確に答えられる(6割程度)	政治経済の知識に関する問題を正確に答えられない		
授業内容を論理的に考察し、説明する力がついたか。	授業内容を十分論理的に説明できる	授業内容をやや論理的に説明できる	授業内容のごく一部しか論理的に説明できない		
現代の時事問題や国際情勢への理解・関心が深まったか。	時事問題や国際情勢に関する問題を正確に答えられる(8割程度)	時事問題や国際情勢に関する問題をおおよそ正確に答えられる(6割程度)	時事問題や国際情勢に関する問題を正確に答えられない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は教科書と板書を使用した講義形式で行う。授業中には随時質問を交え、学生の積極的な発言を求める。「政治とは何か?」「世界とは何か?」「社会をどのような視点から眺めるのか?」このような問いを自らに投げかけ、自分の視野を時間的・空間的に広げてほしい。受講者の興味・関心を喚起するような書籍や画像・映像資料を提示し、時事問題に関する解説も加えていく。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション		
		2週	法と国家		
		3週	近代民主政治の成立(1)		
		4週	近代民主政治の成立(2)		
		5週	大日本帝国憲法		
		6週	日本国憲法(1) 成立と趣旨		
		7週	日本国憲法(2) 国民の権利		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	日本国憲法(3) 新しい人権		
		10週	内閣・国会(1)		
		11週	内閣・国会(2)		
		12週	司法制度(1)		
		13週	司法制度(2)		
		14週	地方自治(1)		
		15週	地方自治(2)		
		16週			
後期	3rdQ	1週	選挙		
		2週	政党政治		
		3週	経済社会の発展		
		4週	市場経済(1)		
		5週	市場経済(2)		
		6週	戦後の日本経済(1)		
		7週	戦後の日本経済(2)		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	現代社会の諸問題(1)労働問題		
		10週	現代社会の諸問題(2)少子・高齢化問題		
		11週	国際社会の諸問題(1)国連		
		12週	国際社会の諸問題(2)安全保障・領土問題		
		13週	国際社会の諸問題(3)南北問題		
		14週	国際社会の諸問題(4)民族紛争		
		15週	メディア・リテラシー		
		16週			
評価割合					

	中間試験	期末試験	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	200	100	0	0	0	500
基礎的能力	200	200	100	0	0	0	500
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 A
科目基礎情報					
科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	e-learning 教材『ALC NetAcademy2』, 『新TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー900』 (講談社), その他担当教員が適宜配布するプリント				
担当教員	菅原 崇				
目的・到達目標					
TOEIC300 点以上獲得を目標に、e-learning教材『ALC NetAcademy2』を活用し、英文法および語彙の知識を深め、英語コミュニケーション能力を高める。具体的には以下の項目の向上を目指す。 ①英文法の知識を深める ②語彙を増やす ③リーディング能力を高める ④ライティング能力を高める ⑤リスニング能力を高める					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目2	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目3	コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目4	コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目5	コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で6割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	辞書、リスニングに必要なイヤフォン、未知の単語熟語などをメモするノート（および筆記用具）を毎回必ず持参すること。持参しない場合は居眠りやよそ事などと同様「履修の資格なし」とみなす。授業中行ったTOEIC 模擬問題の確認や単語の修得を家庭学習として毎回行い、次の授業に臨むこと。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	TOEIC練習問題		
		3週	TOEIC練習問題解答ならび解説		
		4週	TOEIC(R)テスト演習No.1, 2		
		5週	単語テスト		
		6週	TOEIC(R)テスト演習No.3, 4		
		7週	TOEIC(R)テスト演習No.5, 6		
		8週	単語テスト		
	2ndQ	9週	中間試験		
		10週	中間試験解説		
		11週	TOEIC(R)テスト演習No.7, 8		
		12週	単語テスト		
		13週	TOEIC練習問題		
		14週	TOEIC練習問題解答ならび解説		
		15週	期末試験解答解説		
		16週			
後期	3rdQ	1週	単語テスト		
		2週	TOEIC練習問題		
		3週	TOEIC練習問題解答ならび解説		
		4週	単語テスト		



4thQ	5週	単語テスト	
	6週	TOEIC(R)テスト演習No.9, 10	
	7週	TOEIC(R)テスト演習No.11, 12	
	8週	中間試験	
	9週	中間試験解説	
	10週	TOEIC練習問題	
	11週	TOEIC練習問題解答ならび解説	
	12週	TOEIC-IP受験対策	
	13週	単語テスト	
	14週	単語テスト	
	15週	フォローアップ (期末試験解答解説など)	
	16週		

評価割合

	前期中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	平常試験	+TOEIC-IP テスト	合計
総合評価割合	100	100	100	100	50	50	500
得点	100	100	100	100	50	50	500

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 C	
科目基礎情報						
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	人文教育		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	English Firsthand 1 (New Gold Edition), Pearson Longman					
担当教員	キャシディ パトリック, 清水 晃					
目的・到達目標						
Through communicative activities, extensive reading, and listening exercises, students are expected to achieve significant advancements in the following areas. (1) To improve pronunciation and speaking ability (2) To improve listening and comprehension skills (3) To build upon the current base of English vocabulary and grammar (4) To develop ability to confidently communicate in English (5) To introduce a glossary of technical English vocabulary and expressions						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	To pronounce clearly and speak at normal speed (80% or more)	To pronounce clearly and speak at normal speed (60% or more)	To have pronunciation difficulties and a slower rate of speech (speaking)			
評価項目2	To comprehend English spoken at normal speed (80% or more)	To comprehend English spoken at normal speed (60% or more)	To have comprehension difficulties with English spoken at normal speed			
評価項目3	To keep a word book of newly acquired vocabulary (80% or more)	To keep a word book of newly acquired vocabulary (60% or more)	To fail at keeping a word book of newly acquired vocabulary			
評価項目4	To express and comprehend everyday conversation (80% or more)	To express and comprehend everyday conversation (60% or more)	To be unable to express and comprehend everyday conversation			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要						
授業の進め方と授業内容・方法	Whenever possible a student centered approach will be used through games, pair work and small group activities. In addition, individual writing, reading and listening assignments will be carried out.					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Past Events			
		2週	Past and Present Game / Music and its roots			
		3週	Money and shopping (part one)			
		4週	Money and shopping (part two)			
		5週	Let's Compare			
		6週	Directions			
		7週	Essay Question Review			
		8週	midterm exam			
	2ndQ	9週	Surviving in a foreign country			
		10週	Giving advice			
		11週	The Future.... What are you going to do this weekend?			
		12週	Find someone who...			
		13週	"Lifestyle Survey"			
		14週	Video Program Listening Exercise			
		15週	Essay Question Review			
		16週				
評価割合						
	定期試験	平常試験			その他	合計
総合評価割合	200	50	0	0	0	250
得点	200	50	0	0	0	250
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	テーマ別中級から学ぶ日本語 (研究社 2003) 他にプリント、辞書等。				
担当教員	齊藤 聖菜				
目的・到達目標					
<p>学習者自身と日本社会が関連付けられるテーマについて、読む、話す (聞く)、書く活動を行うことで、学習者それぞれが自分自身や日本社会について個人で思考し、自分の考えを日本語で表現し互いに伝え合い、それぞれの思考を広げたり深めたりしていくことを目指す。また、常に自分に必要な日本語能力を内省し目標を立て自律的な学習能力を身に付けることを目指す。</p> <p>①自分自身と日本社会について思考できる。  ②自分の考えを他者に話したり書いたりすることで表現して伝えられる。  ③他者との相互作用を通して、自己理解、日本に対する理解が深まる。  ④自分に必要な日本語能力を把握し自律的に学習を進められる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各課のテーマ理解、要旨把握に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。		各課のテーマ理解、要旨把握に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。		各課のテーマ理解、要旨把握に関する問題を解くことができない。
評価項目2	各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、聞き手が理解するのにほとんど(8割以上)負担を感じさせずに各課のテーマの要旨や自分の考えを口頭で説明できる。		各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、各課のテーマの要旨や自分の考えを口頭で説明できる(6割以上)が、所々聞き手が理解するのに負担を感じる部分もあるが。		各課の新出語彙や重要文法も使用・不使用に関わらず、各課のテーマの要旨や自分の考えを口頭で説明しても、聞き手が理解するのに非常に負担がかかる、もしくは理解不可能である。
評価項目3	各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、各課のテーマの要旨や自分の考えについて、読み手が理解するのにほぼ(8割以上)負担を感じさせない作文が書ける。		各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、各課のテーマの要旨や自分の考えについて、読み手がほぼ理解可能な作文が書ける(6割以上)が、所々論旨や日本語の表現で理解が難しいところがある。		各課の新出語彙や重要文法の使用・不使用に関わらず、各課のテーマの要旨や自分の考えについて書かれた作文を読み手が理解するのに非常に負担がかかる、もしくは理解不可能である。
評価項目4	各課終了時点での自分の日本語能力や必要性について助けがなくても自ら深く内省ができる。		各課終了時点での自分の日本語能力や必要性について内省ができるが、一部支援が必要である。		各課終了時点での自分の日本語能力や必要性について内省ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は他者とやり取りすることに比重を置くため、個人作業が可能なことは予習とする。新出・既出に限らず各自言葉の整理ができるよう言葉シートを作ること。生徒が主体的に学習に参加し自律的に学習を進められるよう、各テーマが終了することに振り返りシートに記入する。言葉シート、授業中の作文、振り返りシートはファイリングし期末テスト後の全体の振り返りで活用する。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第1課 [たとえる] 事前活動, 読む活動		
		2週	第1課 [たとえる] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		3週	第3課 [はたらく] 事前活動, 読む活動		
		4週	第3課 [はたらく] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		5週	第4課 [あきれる] 事前活動, 読む活動		
		6週	第4課 [あきれる] 話す活動, (書く活動), [日本人ゲストセッション] 準備		
		7週	[日本人ゲストセッション] セッション, 振り返り		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	第5課 [たべる] 事前活動, 読む活動		
		10週	第5課 [たべる] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		11週	第7課 [いう] 事前活動, 読む活動		
		12週	第7課 [いう] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		13週	第8課 [かざる] 事前活動, 読む活動		
		14週	第8課 [かざる] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		15週	フォローアップ (期末試験の解答の解説など), 前期全体の振り返り		
		16週			
後期	3rdQ	1週	第9課 [あらわす] 事前活動, 読む活動		
		2週	第9課 [あらわす] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		3週	第10課 [いきる] 事前活動, 読む活動		
		4週	第10課 [いきる] 話す活動, 書く活動, 振り返り		
		5週	第12課 [あつまる] 事前活動, 読む活動		
		6週	第12課 [あつまる] 話す活動, (書く活動), [日本人ゲストセッション] 準備		

4thQ	7週	[日本人ゲストセッション] セッション, 振り返り	
	8週	中間試験	
	9週	第14課 [であう] 事前活動, 読む活動	
	10週	第14課 [であう] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
	11週	第15課 [わかりあう] 事前活動, 読む活動	
	12週	第15課 [わかりあう] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
	13週	第17課 [わかる] 事前活動, 読む活動	
	14週	第17課 [わかる] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
	15週	フォローアップ (期末試験解答解説など), 後期全体の振り返り	
	16週		

評価割合

	試験	態度	合計
総合評価割合	200	100	300
得点	200	0	200
専門的能力	0	100	100

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本事情
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	適宜プリントを使用。				
担当教員	菅原 崇				
目的・到達目標					
日本の歴史・風土から、現代最新事情まで日本と人を取り巻く様々な問題や課題について、幅広い知見を獲得する。またその理解を通じて日本語の運用能力高める。 ①日本の歴史や文化について基本的知識を身につける。 ②現代日本における様々な問題を理解する。 ③自分の出身国と日本の違いを、様々な角度から客観的に理解する。 ④日本語でのプレゼンテーション能力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本の歴史や文化に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	日本の歴史や文化に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	日本の歴史や文化に関する問題を解くことができない。		
評価項目2	現代日本の問題に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	現代日本の問題に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	現代日本の問題に関する問題を解くことができない。		
評価項目3	出身国と日本の違いに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	出身国と日本の違いに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	出身国と日本の違いに関する問題を解くことができない。		
評価項目4	日本語でのプレゼンに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	日本語でのプレゼンに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	日本語でのプレゼンに関する問題を解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	特定の教科書は指定せず、授業ごとに教材が提示される。幅広いテーマを扱うので、普段から日本語新聞やニュースなどに接する機会を多くしておくこと。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本の暮らし①		
		2週	日本の暮らし②		
		3週	日本の暮らし③		
		4週	日本の自然・地理①		
		5週	日本の自然・地理②		
		6週	日本の自然・地理③		
		7週	日本の自然・地理④		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	現代日本を取り巻く環境①		
		10週	現代日本を取り巻く環境②		
		11週	現代日本を取り巻く環境③		
		12週	現代日本を取り巻く環境④		
		13週	現代日本を取り巻く環境⑤		
		14週	現代日本を取り巻く環境⑥		
		15週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション①		
		16週			
後期	3rdQ	1週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション②		
		2週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション③		
		3週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション④		
		4週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション⑤		
		5週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション⑥		
		6週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション⑦		
		7週	時事問題、新聞読解、グループディスカッション⑧		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	映像をもとに日本について考える(映画・ドラマ・ドキュメント)①		
		10週	映像をもとに日本について考える(映画・ドラマ・ドキュメント)②		
		11週	映像をもとに日本について考える(映画・ドラマ・ドキュメント)③		
		12週	映像をもとに日本について考える(映画・ドラマ・ドキュメント)④		

	13週	映像をもとに日本について考える（映画・ドラマ・ドキュメント）⑤	
	14週	映像をもとに日本について考える（映画・ドラマ・ドキュメント）⑥	
	15週	日本の言語と文化の関わり	
	16週		
評価割合			
	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	200	0	200
得点	200	50~100	200

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合国語 (前期)
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	人文教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	1		
教科書/教材	太宰治『お伽草紙・新釈諸国噺』(岩波文庫)				
担当教員	宮口 典之				
<b>目的・到達目標</b>					
第3年次までの学習をふまえ、日本語における読解・表現・議論の能力のさらなる育成を図ると共に、古典を素材とした作品を扱うことを通して歴史や文化について考えることを目的とする。					
①論理の展開を的確に捉える。 ②自分の考えを論理的に表現できる。 ③議論ができる。 ④歴史・文化への関心を深める。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 ①読解力・聴き取り理解する力が向上したか。	読解及び聴き取り理解することに関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	読解及び聴き取り理解することに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	読解及び聴き取り理解することに関する問題を解くことができない。		
評価項目2 ②論理的な表現ができたか。	論理的な表現に関してほぼ正確(8割以上)に行うことができる。	論理的な表現に関してほぼ正確(6割以上)に行うことができる。	論理的な表現に関してほぼ正確に行うことができない。		
評価項目3 ③きちんとした議論ができるか。	議論に関してほぼ正確(8割以上)に行うことができる。	議論に関してほぼ正確(6割以上)に行うことができる。	議論に関してほぼ正確に行なうことができない。		
評価項目4 ④歴史・文化への関心は深まったか。	歴史・文化に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	歴史・文化に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	歴史・文化に関する問題を解くことができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心とし、それに作文・発表を行う時間を織り込んで行う。各自で資料に当たる等、積極的な姿勢が求められる。課題は必ず提出すること。				
注意点					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	発表の日程調整、作文課題の指示		
		2週	作文(1)		
		3週	発表(1) 読解・「お伽草紙」を読む(1)		
		4週	発表(2) 読解・「お伽草紙」を読む(2)		
		5週	発表(3) 読解・「お伽草紙」を読む(3)		
		6週	発表(4) 読解・「お伽草紙」を読む(4)		
		7週	発表(5) 読解・「お伽草紙」を読む(5)		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	発表の日程調整、作文課題の指示		
		10週	作文(2)		
		11週	発表(6) 読解・「新釈諸国噺」を読む(1)		
		12週	発表(7) 読解・「新釈諸国噺」を読む(2)		
		13週	発表(8) 読解・「新釈諸国噺」を読む(3)		
		14週	発表(9) 読解・「新釈諸国噺」を読む(4)		
		15週	期末試験		
		16週	まとめ		
<b>評価割合</b>					
	試験	作文	発表	課題	合計
総合評価割合	100	20	20	10	150
得点	100	20	20	10	150

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合国語 (後期)
科目基礎情報					
科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	人文教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	1		
教科書/教材	太宰治『お伽草紙・新釈諸国噺』(岩波文庫)				
担当教員	宮口 典之				
目的・到達目標					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 ①読解力・聴き取り理解する力が向上したか。	読解及び聴き取り理解することに関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	読解及び聴き取り理解することに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	読解及び聴き取り理解することに関する問題を解くことができない。		
評価項目2 ②論理的な表現ができたか。	論理的な表現に関してほぼ正確(8割以上)に行うことができる。	論理的な表現に関してほぼ正確(6割以上)に行うことができる。	論理的な表現に関してほぼ正確に行うことができない。		
評価項目3 ③きちんとした議論ができるか。	議論に関してほぼ正確(8割以上)に行うことができる。	議論に関してほぼ正確(6割以上)に行うことができる。	議論に関してほぼ正確に行なうことができない。		
評価項目4 ④歴史・文化への関心は深まったか。	歴史・文化に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	歴史・文化に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	歴史・文化に関する問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は、教科書と板書を中心とし、それに作文・発表を行う時間を織り込んで行う。 各自で資料に当たる等、積極的な姿勢が求められる。 課題は必ず提出すること。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	発表の日程調整、作文課題の指示		
		2週	作文(1)		
		3週	発表(1) 読解・「お伽草紙」を読む(1)		
		4週	発表(2) 読解・「お伽草紙」を読む(2)		
		5週	発表(3) 読解・「お伽草紙」を読む(3)		
		6週	発表(4) 読解・「お伽草紙」を読む(4)		
		7週	発表(5) 読解・「お伽草紙」を読む(5)		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	発表の日程調整、作文課題の指示		
		10週	作文(2)		
		11週	発表(6) 読解・「新釈諸国噺」を読む(1)		
		12週	発表(7) 読解・「新釈諸国噺」を読む(2)		
		13週	発表(8) 読解・「新釈諸国噺」を読む(3)		
		14週	発表(9) 読解・「新釈諸国噺」を読む(4)		
		15週	期末試験		
		16週	まとめ		
評価割合					
	試験	作文	発表	課題	合計
総合評価割合	100	20	20	10	150
得点	100	20	20	10	150



岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	法学
科目基礎情報					
科目番号	0003	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	『法学概論』(慶応義塾大学出版会, 2015)				
担当教員	空 健太				
目的・到達目標					
<p>本授業は、法化社会における市民として、法を正しく理解し、法を適切に活用して問題を解決する力を養うことを目的とする。この目標を達成するために、主に授業では次の4点を具体的な目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法が社会において果たしている役割を説明することができる。</li> <li>2. 法が想定する社会のあり方を、具体的な法をもとに考察することができる。</li> <li>3. 法を主張の根拠として適切に使用することができる。</li> <li>4. 民主主義社会の市民として、法を活用して論理的な意見を論述で表現することができる。</li> </ol> <p>これらが達成されたかどうかは、授業中の質疑応答や課題、定期考査によって評価する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
法(憲法・民法・刑法・労働法・会社法など)の趣旨や内容を適切に理解することができる	法(法律)の趣旨や内容に関する知識確認問題を正確(8割以上)に解くことができる。	法(法律)の趣旨や内容に関する知識確認問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	法(法律)の趣旨や内容に関する知識確認問題を解くことができない。		
法(憲法・民法・刑法・労働法・会社法など)が存在する意義や法の課題を適切に説明することができる	法(法律)が存在する意義や課題を問う説明問題を正確(8割以上)に解くことができる。	法(法律)が存在する意義や課題を問う説明問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	法(法律)が存在する意義や課題を問う説明問題を解くことができない。		
法(憲法・民法・刑法・労働法・会社法など)の歴史的経緯を理解することができる	法(法律)の歴史的経緯を問う説明問題を正確(8割以上)に解くことができる。	法(法律)の歴史的経緯を問う説明問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	法(法律)の歴史的経緯を問う説明問題を解くことができない。		
現代社会における法の意義を説明することができる	現代社会における法の意義を問う説明問題を正確(8割以上)に解くことができる。	現代社会における法の意義を問う説明問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	現代社会における法の意義を問う説明問題を解くことができない。		
あるテーマについての論述を論理的に行うことができる	明確な主張とそれを支える根拠が複数ある説得力のある一貫した論述を行うことができる。	明確な主張とそれを支える根拠が複数ある論述を行うことができるが、全体の一貫性に課題がある。	論述はしているものの、主張が明確でないことや根拠に欠けるなど、論述としての構成に大きな課題がある。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業は資料を提示しながら、発問を中心として進める。学生諸君は与えられた発問に対して自分の考えを積極的に答えたい。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	年間ガイダンス/身近な法と我々の生活		
		2週	法的な思考		
		3週	憲法(1)		
		4週	憲法(2)		
		5週	憲法(3)		
		6週	民法(1)		
		7週	民法(2)		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	裁判について考える「殺オオカミ事件」		
		10週	刑事法(1)		
		11週	刑事法(2)		
		12週	産業法(1)		
		13週	産業法(2)		
		14週	その他の法(1)		
		15週	その他の法(2)		
		16週			
後期	3rdQ	1週	社会法-労働法(1)		
		2週	社会法-労働法(2)		
		3週	社会法-労働法(3)		
		4週	社会法-労働法(4)		
		5週	社会法-労働法(5)		
		6週	社会法-労働法(6)		
		7週	社会法-労働法(7)		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	社会法-会社法(1)		
		10週	社会法-会社法(2)		

	11週	社会法－会社法(3)	
	12週	民主主義と集約ルール(1)	
	13週	民主主義と集約ルール(2)	
	14週	民主主義と集約ルール(3)	
	15週	民主主義と集約ルール(4)	
	16週		

評価割合

	中間試験	期末試験	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	200	100	0	0	0	500
基礎的能力	200	200	100	0	0	0	500
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 A (M)
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	英語演習ノート (GREEN版) (CHART INSTITUTE、数研出版)、スプリーム リーディング 2 (穴戸真 他、成美堂)				
担当教員	清水 晃				
<b>目的・到達目標</b>					
英文法および語彙の知識を深め、英語コミュニケーション能力を高める。具体的には以下の項目を目標とする。 ①英文法の知識を深める ②語彙を増やす ③リーディング能力を高める ④ライティング能力を高める					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英文法に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	英文法に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	英文法に関する問題を解くことができない。		
評価項目2	語彙に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	語彙に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	語彙に関する問題を解くことができない。		
評価項目3	リーディングに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	リーディングに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	リーディングに関する問題を解くことができない。		
評価項目4	ライティングに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	ライティングに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	ライティングに関する問題を解くことができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	毎回、プリントを用いて英作文演習(空所補充形式)を行う。英文法と総合教材の教科書は予習がなされているという前提で進めるので、演習問題は解いた上で授業に臨むこと。				
注意点					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、プリント教材		
		2週	プリント教材、英文法 1 文の種類、総合教材 Chapter 1 Smartphones		
		3週	プリント教材、英文法 2 基本5文型、総合教材 Chapter 1 Smartphones		
		4週	プリント教材、英文法 3 時制、総合教材 Chapter 2 Fairtrade		
		5週	プリント教材、英文法 4 完了形、総合教材 Chapter 2 Fairtrade		
		6週	プリント教材、英文法 5 助動詞、総合教材 Chapter 3 3D Printers		
		7週	プリント教材、英文法 6 受動態、総合教材 Chapter 3 3D Printers		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	プリント教材、英文法 7 不定詞Ⅰ、総合教材 Chapter 4 One Direction		
		10週	プリント教材、英文法 8 不定詞Ⅱ、総合教材 Chapter 4 One Direction		
		11週	プリント教材、英文法 9 不定詞Ⅲ、総合教材 Chapter 5 Silent Movies		
		12週	プリント教材、英文法 10 動名詞、総合教材 Chapter 5 Silent Movies		
		13週	プリント教材、英文法 11 分詞、総合教材 Chapter 6 The Sound Barrier		
		14週	プリント教材、英文法 12 不定詞・動名詞・分詞、総合教材 Chapter 6 The Sound Barrier		
		15週	プリント教材、英文法 13 比較Ⅰ、総合教材 Chapter 7 Extreme Weather		
		16週			
後期	3rdQ	1週	プリント教材、英文法 14 比較Ⅱ、総合教材 Chapter 7 Extreme Weather		
		2週	プリント教材、英文法 15 関係代名詞Ⅰ、総合教材 Chapter 8 Mark Zuckerberg		
		3週	プリント教材、英文法 16 関係代名詞Ⅱ、総合教材 Chapter 8 Mark Zuckerberg		
		4週	プリント教材、英文法 17 関係副詞、総合教材 Chapter 9 Discovering New Planets		

4thQ	5週	プリント教材、英文法 18 仮定法、総合教材 Chapter 9 Discovering New Planets	
	6週	プリント教材、英文法 19 時制の一致・話法、総合教材 Chapter 10 Counterfeit Money	
	7週	プリント教材、英文法 20 名詞・冠詞、総合教材 Chapter 10 Counterfeit Money	
	8週	中間試験	
	9週	プリント教材、英文法 21 代名詞、総合教材 Chapter 11 Reality TV	
	10週	プリント教材、英文法 22 形容詞・副詞、総合教材 Chapter 11 Reality TV	
	11週	プリント教材、英文法 23 前置詞・群前置詞、総合教材 Chapter 12 Aesop's Fables	
	12週	プリント教材、英文法 24 接続詞Ⅰ、総合教材 Chapter 12 Aesop's Fables	
	13週	プリント教材、英文法 25 接続詞Ⅱ、総合教材 Chapter 13 Vegetarianism	
	14週	プリント教材、英文法 26 否定、総合教材 Chapter 13 Vegetarianism	
	15週	プリント教材、英文法 27 特殊構文、総合教材 Chapter 14 Left Brain versus Right Brain	
	16週		

評価割合

	定期試験	平常試験				その他	合計
総合評価割合	400	100	0	0	0	0	500
得点	400	100	0	0	0	0	500
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 A (E D)
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	e-learning 教材『ALC NetAcademy2』, 『新TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー900』 (講談社), その他担当教員が適宜配布するプリント				
担当教員	菅原 崇				
目的・到達目標					
TOEIC350 点以上獲得を目標に、e-learning教材『ALC NetAcademy2』を活用し、英文法および語彙の知識を深め、英語コミュニケーション能力を高める。具体的には以下の項目の向上を目指す。 ①英文法の知識を深める ②語彙を増やす ③リーディング能力を高める ④ライティング能力を高める ⑤リスニング能力を高める					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目2	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目3	コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目4	コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で6割未満である。		
評価項目5	コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で6割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	辞書、リスニングに必要なイヤフォン、未知の単語熟語などをメモするノート（および筆記用具）を毎回必ず持参すること。持参しない場合は居眠りやよそ事などと同様「履修の資格なし」とみなす。 授業中行ったTOEIC 模擬問題の確認や単語の修得を家庭学習として毎回行い、次の授業に臨むこと。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	TOEIC練習問題		
		3週	TOEIC練習問題解答ならび解説		
		4週	TOEIC(R)テスト演習No.1, 2		
		5週	単語テスト		
		6週	TOEIC(R)テスト演習No.3, 4		
		7週	TOEIC(R)テスト演習No.5, 6		
		8週	単語テスト		
	2ndQ	9週	中間試験		
		10週	中間試験解説		
		11週	TOEIC(R)テスト演習No.7, 8		
		12週	単語テスト		
		13週	TOEIC練習問題		
		14週	TOEIC練習問題解答ならび解説		
		15週	期末試験解答解説		
		16週			
後期	3rdQ	1週	単語テスト		
		2週	TOEIC練習問題		
		3週	TOEIC練習問題解答ならび解説		
		4週	単語テスト		

4thQ	5週	単語テスト
	6週	TOEIC(R)テスト演習No.9, 10
	7週	TOEIC(R)テスト演習No.11, 12
	8週	中間試験
	9週	中間試験解説
	10週	TOEIC練習問題
	11週	TOEIC練習問題解答ならび解説
	12週	TOEIC-IP受験対策
	13週	単語テスト
	14週	単語テスト
	15週	フォローアップ（期末試験解答解説など）
	16週	

評価割合

	前期中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	前期平常試験	後期平常試験	合計
総合評価割合	100	100	100	100	100	100	600
得点	100	100	100	100	100	100	600
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語 A (C A)
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	人文教育		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	『理工系学生のための必修英単語 2 6 0 0』 (成美堂) および本授業のために開発したe-ラーニング教材を使用				
担当教員	亀山 太一				
目的・到達目標					
Eラーニング教材 (教員自作によるもの) を使用し、3年生までに学習した語彙、文法等の力を再確認し、より高い語彙力、文法運用能力を身につけ、確実なものとする。 ①より広範な語彙力を身につける。 ②文法知識を確実に身につける。 ③Listening Skillをのばす。 ④Reading Skillをのばす。 ⑤Writing Skillをのばす。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目①課題指定された範囲の60%の語彙力がある。	語彙力に関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	語彙力に関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	語彙力に関する問題を6割以上解くことができない		
評価項目②課題指定された範囲の60%の文法知識がある。	聴き取りに関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	聴き取りに関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	聴き取りに関する問題を6割以上解くことができない		
評価③課題指定された範囲の英語を60%以上聞き取ることができる。	文法に関する問題を正確に (8割以上) 解くことができる	文法に関する問題をほぼ正確に (6割以上) 解くことができる	文法に関する問題を6割以上解くことができない		
④課題指定された範囲の英文を60%以上読み取ることができる。	既習の英単語および英文の発音を正確に (8割以上) 行なうことができる	既習の英単語および英文の発音をほぼ正確に (6割以上) 行なうことができる	既習の英単語および英文の発音を6割以上行なうことができない		
⑤指定されたトピックについて60%以上の正確さで英文を書くことができる。	指定されたトピックについて正確に (8割以上) 英文を書くことができる	指定されたトピックについてほぼ正確に (6割以上) 英文を書くことができる	指定されたトピックについて正確に (6割以上) 英文を書くことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	Eラーニング教材 (教員自作によるもの) を使用し、3年生までに学習した語彙、文法等の力を再確認し、より高い語彙力、文法運用能力を身につけ、確実なものとする。				
授業の進め方と授業内容・方法	教材は、主としてパソコン(WEB)上にあるので、この中から指定されたものを各自ダウンロードするなどして個人に応じたペースで学習を進める。目指す英語力に上限はないので、授業時間以外にも可能な限りパソコン等を使って学習を行い、より高いレベルを目指すことを推奨する。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第 1回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (1)		
		2週	第 2回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (2)		
		3週	第 3回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (3)		
		4週	第 4回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (4)		
		5週	第 5回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (5)		
		6週	第 6回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (6)		
		7週	第 7回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (7)		
		8週	第 8回: 中間試験		
	2ndQ	9週	第 9回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (8)		
		10週	第 10回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (9)		
		11週	第 11回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (10)		
		12週	第 12回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (11)		
		13週	第 13回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (12)		
		14週	第 14回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (13)		
		15週	期末試験		
		16週	第 15回: 前期の総復習と課題演習		
後期	3rdQ	1週	第 16回: Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト (14)		

		2週	第17回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(15)	
		3週	第18回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(16)	
		4週	第19回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(17)	
		5週	第20回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(18)	
		6週	第21回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(19)	
		7週	第22回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(20)	
		8週	第23回：中間試験	
		4thQ	9週	第24回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(21)
	10週		第25回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(22)	
	11週		第26回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(23)	
	12週		第27回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(24)	
	13週		第28回：Eラーニングによる総合演習および既習文法に関する確認テスト(25)	
	14週		第29回：後期の総復習と課題演習	
	15週		期末試験	
	16週		第30回：期末試験の解答の解説など	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	100	100	200
得点	100	100	200



岐阜工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語
科目基礎情報				
科目番号	0008	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人文教育	対象学年	4	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	テーマ別中級から学ぶ日本語 (研究社 2003) 他にプリント、辞書等。			
担当教員	齊藤 聖菜			

### 目的・到達目標

学習者自身と日本社会が関連付けられるテーマについて、読む、話す(聞く)、書く活動を行うことで、学習者それぞれが自分自身や日本社会について個人で思考し、自分の考えを日本語で表現し互いに伝え合い、それぞれの思考を広げたり深めたりしていくことを目指す。また、常に自分に必要な日本語能力を内省し目標を立て自律的な学習能力を身に付けることを目指す。

- ①自分自身と日本社会について思考できる。
- ②自分の考えを他者に話したり書いたりすることで表現して伝えられる。
- ③他者との相互作用を通して、自己理解、日本に対する理解が深まる。
- ④自分に必要な日本語能力を把握し自律的に学習を進められる。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	各課のテーマ理解、要旨把握に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	各課のテーマ理解、要旨把握に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	各課のテーマ理解、要旨把握に関する問題を解くことができない。
評価項目2	各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、聞き手が理解するのにほとんど(8割以上)負担を感じさせずに各課のテーマの要旨や自分の考えを口頭で説明できる。	各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、各課のテーマの要旨や自分の考えを口頭で説明できる(6割以上)が、所々聞き手が理解するのに負担を感じる部分もあるが。	各課の新出語彙や重要文法も使用・不使用に関わらず、各課のテーマの要旨や自分の考えを口頭で説明しても、聞き手が理解するのに非常に負担がかかる、もしくは理解不可能である。
評価項目3	各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、各課のテーマの要旨や自分の考えについて、読み手が理解するのにほぼ(8割以上)負担を感じさせない作文が書ける。	各課の新出語彙や重要文法も使用しながら、各課のテーマの要旨や自分の考えについて、読み手がほぼ理解可能な作文が書ける(6割以上)が、所々論旨や日本語の表現で理解が難しいところがある。	各課の新出語彙や重要文法の使用・不使用に関わらず、各課のテーマの要旨や自分の考えについて書かれた作文を読み手が理解するのに非常に負担がかかる、もしくは理解不可能である。
評価項目4	各課終了時点での自分の日本語能力や必要性について助けがなくても自ら深く内省ができる。	各課終了時点での自分の日本語能力や必要性について内省ができるが、一部支援が必要である。	各課終了時点での自分の日本語能力や必要性について内省ができない。

### 学科の到達目標項目との関係

### 教育方法等

概要	
授業の進め方と授業内容・方法	授業は他者とやり取りすることに比重を置くため、個人作業が可能なことは予習とする。新出・既出に限らず各自言葉の整理ができるよう言葉シートを作ること。生徒が主体的に学習に参加し自律的に学習を進められるよう、各テーマが終了することに振り返りシートに記入する。言葉シート、授業中の作文、振り返りシートはファイリングし期末テスト後の全体の振り返りで活用する。
注意点	

### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第1課 [たとえる] 事前活動, 読む活動	
		2週	第1課 [たとえる] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		3週	第3課 [はたらく] 事前活動, 読む活動	
		4週	第3課 [はたらく] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		5週	第4課 [あきれる] 事前活動, 読む活動	
		6週	第4課 [あきれる] 話す活動, (書く活動), [日本人ゲストセッション] 準備	
		7週	[日本人ゲストセッション] セッション, 振り返り	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	第5課 [たべる] 事前活動, 読む活動	
		10週	第5課 [たべる] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		11週	第7課 [いう] 事前活動, 読む活動	
		12週	第7課 [いう] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		13週	第8課 [かざる] 事前活動, 読む活動	
		14週	第8課 [かざる] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		15週	フォローアップ (期末試験の解答の解説など), 前期全体の振り返り	
		16週		
後期	3rdQ	1週	第9課 [あらわす] 事前活動, 読む活動	
		2週	第9課 [あらわす] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		3週	第10課 [いきる] 事前活動, 読む活動	
		4週	第10課 [いきる] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
		5週	第12課 [あつまる] 事前活動, 読む活動	
		6週	第12課 [あつまる] 話す活動, (書く活動), [日本人ゲストセッション] 準備	

4thQ	7週	[日本人ゲストセッション] セッション, 振り返り	
	8週	中間試験	
	9週	第14課 [であう] 事前活動, 読む活動	
	10週	第14課 [であう] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
	11週	第15課 [わかりあう] 事前活動, 読む活動	
	12週	第15課 [わかりあう] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
	13週	第17課 [わかる] 事前活動, 読む活動	
	14週	第17課 [わかる] 話す活動, 書く活動, 振り返り	
	15週	フォローアップ (期末試験解答解説など), 後期全体の振り返り	
	16週		

評価割合

	試験	態度	合計
総合評価割合	200	100	300
得点	200	0	200
専門的能力	0	100	100

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本事情
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	人文教育		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	生教材を使用するため特定の教科書は使用しない。				
担当教員	一般科人文 教員				
目的・到達目標					
<p>これまでの日本事情に関する知識を基に、現代日本の社会的現象、諸問題、及び文化についての知識と理解を深める。</p> <p>①日本事情に関する用語の理解度を測る試験で6割以上できる。  ②日本事情に関する基礎的用語を6割以上の的確さで説明できる。  ③現代日本の社会的現象や諸問題の理解度を測る試験で6割以上できる。  ④現代日本の主な社会的現象や問題を6割以上の的確さで述べることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本事情に関する用語の理解度に関する問題を、ほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	日本事情に関する用語の理解度に関する問題を、ほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	日本事情に関する用語の理解度に関する問題を、解くことができない。		
評価項目2	日本事情に関する基礎的用語を、ほぼ正確に(8割以上)説明できる。	日本事情に関する基礎的用語を、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。	日本事情に関する基礎的用語を説明できない。		
評価項目3	現代日本の社会的現象や諸問題の理解度を測る問題を、ほぼ正確(8割以上)に解くことが出来る。	現代日本の社会的現象や諸問題の理解度を測る問題を、ほぼ正確(6割以上)に解くことが出来る。	現代日本の社会的現象や諸問題の理解度を測る問題を解くことが出来ない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	授業では生教材(新聞・雑誌等)が使用されるので、日頃から新聞や雑誌を読むように心がけること。また興味を持った事柄に対して自分なりに調べ、自分なりの意見をまとめて授業に臨むこと。受講者の理解度や興味関心に応じて、進度やテーマを適宜変更する可能性もある。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		
		2週	「文化」をテーマとして		
		3週	「文化」をテーマとして		
		4週	「風習」をテーマとして		
		5週	「風習」をテーマとして		
		6週	「家庭」をテーマとして		
		7週	「家庭」をテーマとして		
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	「社会」をテーマとして		
		10週	「社会」をテーマとして		
		11週	「芸術」をテーマとして		
		12週	「芸術」をテーマとして		
		13週	「政治」をテーマとして		
		14週	「政治」をテーマとして		
		15週	総復習(期末試験の解答の解説など)		
		16週			
評価割合					
	試験	平常試験・課題	合計		
総合評価割合	100	200	300		
基礎的能力	100	200	300		

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ドイツ語
科目基礎情報					
科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	人文教育	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	大谷弘道「ドイツ人を知る9章」(三修社) 大谷弘道「新・問いかけるドイツ語」改訂版(三修社)				
担当教員	高原 清志				
目的・到達目標					
① 単語を見て発音できるようになる。 ② 既習の文法知識を定着させるとともに、さらに高度な文法事項を理解する。 ③ 作文力と読解力を養成するとともに、コミュニケーション(会話やEメール交流等)ができるよう、基礎学力を身につける。 ④ ドイツ語圏の人々の生活、文化、習慣について知識と洞察力を得るとともに、日独、日欧の文化を比較検討する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
単語を見て発音できるようになる	単語を見て発音する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	単語を見て発音する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	単語を見て発音ができない。		
既習の文法知識を定着させるとともに、さらに高度な文法事項を理解する	学習対象とした基礎的な文法事項に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる	学習対象とした基礎的な文法事項に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる	学習対象とした基礎的な文法を理解していない。		
作文力と読解力を養成するとともに、コミュニケーション(会話やEメール交流等)ができるよう、基礎学力を身につける	文の構造理解、テキストレベルの読解力、作文力、基本的コミュニケーションに関する問題をほぼ正確に(8割以上)に解くことができる。	文の構造理解、テキストレベルの読解力、作文力、基本的コミュニケーションに関する問題をほぼ正確に(6割以上)に解くことができる。	文の構造を理解してテキストレベルの読解力を獲得できず、作文力を獲得せず、基本的コミュニケーションができない。		
ドイツ語圏の人々の生活、文化、習慣について知識と洞察力を得るとともに、日独、日欧の文化を比較検討する。	ドイツ語圏の文化や生活の理解、日独、日欧の文化比較に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	ドイツ語圏の文化や生活の理解、日独、日欧の文化比較に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	ドイツ語圏の文化や生活を理解し、日独、日欧の文化比較ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方と授業内容・方法	初年度よりも高度な教材を使用し、演習形式の授業を行う。毎回課題提出と添削指導がある。添削結果を吟味し、理解を深めること。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第1回: テキストの読解 現在完了(1)		
		2週	第2回: 表現練習 現在完了(2)		
		3週	第3回: 表現練習 語法の助動詞の完了形		
		4週	第4回: テキストの読解 受動(1)		
		5週	第5回: 表現練習 受動(2)		
		6週	第6回: 表現練習 再帰動詞		
		7週	第7回: テキストの読解 zu不定句(1)		
		8週	第8回: 表現練習 zu不定句(2)		
	2ndQ	9週	第9回: テキストの読解 関係代名詞		
		10週	第10回: 表現練習 関係代名詞(2)		
		11週	第11回: 表現練習 関係代名詞(3)		
		12週	第12回: 表現練習 命令形 疑問代名詞		
		13週	第13回: テキストの読解 接続法(1)		
		14週	第14回: 表現練習 接続法(2)		
		15週	期末試験		
		16週	第15回: 表現練習 接続法(3)		
後期	3rdQ	1週	第16回: 強変化動詞、分離動詞の復習と発展学習		
		2週	第17回: テキストの読解と表現練習 Feste und Feiern		
		3週	第18回: 前置詞と造語法の復習と発展学習		
		4週	第19回: テキストの読解と表現練習 Hotel "Mama" ist immer beliebter!		
		5週	第20回: zu不定詞句と反対語についての復習と発展学習		
		6週	第21回: テキストの読解と表現練習 Deutsche Schüler sind aktiv!		
		7週	第22回: 助動詞の復習と発展学習		
		8週	第23回: テキストの読解と表現練習 Einmal darf man durchfallen!		
	4thQ	9週	第24回: 関係代名詞の復習と発展学習		
		10週	第25回: テキストの読解と表現練習 Mensch und Tier		

	11週	第26回：受動態の復習と発展学習	
	12週	第27回：テキストの読解と表現練習 Privatsache?	
	13週	第28回：前置詞と前つづりの復習と発展学習	
	14週	第29回：テキストの読解と表現練習 Gesetze und die Deutschen(1)	
	15週	期末試験	
	16週	第30回：テキストの読解と表現練習 Gesetze und die Deutschen(2)	

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	100	30	130
試験	100	30	130
専門的能力	0	0	0